

平成 28 年度 学位論文

運動部活動の退部支援に関する研究
—経験者への面接調査に基づく分析—

兵庫教育大学大学院

学校教育研究科 人間発達教育専攻

臨床心理学コース

M15067F 菅田有希子

目次

序章	1
第1章 問題と目的	3
1.1 運動部活動について	3
1.2 運動部活動における不適応と退部	3
1.3 退部の予防	5
1.4 退部の否定的イメージ	6
1.5 退部支援	6
1.6 研究対象	8
1.7 質的研究法	8
1.8 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ	9
1.9 本研究の目的	9
第2章 方法	11
2.1 研究協力者のサンプリング	11
2.2 データの収集方法	11
2.3 調査内容	12
2.4 倫理的配慮	13
2.5 分析方法	13
第3章 結果と考察	16
3.1 分析過程	16
3.2 生成された概念	17

3. 3	生成されたカテゴリー	36
3. 4	結果図とストーリーライン	40
第 4 章	総合考察	45
4. 1	退部過程における一貫した支援	45
4. 2	退部希望時の支援	47
4. 3	退部時の支援	49
4. 4	退部後の支援	50
4. 5	退部後の関係性における支援	51
第 5 章	本研究の限界と今後の課題	53
引用文献		55
謝辞		58
資料		59

- ①研究調査依頼書・研究概要
- ②研究協力をお願い
- ③インフォームドコンセント・倫理的配慮
- ④同意書の署名およびフェイスシート
- ⑤研究協力承諾書
- ⑥倫理審査申請書
- ⑦倫理委員会審査結果通知書
- ⑧分析ワークシート

序 章

中学生や高校生にとって、所属する運動部活動の退部は大きな悩みとなり得る出来事である。退部における多様なストレスは、退部を決意するまでの過程から退部後にまで及ぶのではないだろうか。たとえば、途中離脱という自責感や罪悪感、打ち込む対象を失う空虚感、顧問・教師やメンバーとの関係の悪化、否定的イメージの付着など、様々な心理的困難や葛藤が考えられる。さらに、退部者は退部前に持っていた人間関係、特に所属していた運動部活動のメンバーとの関係が希薄になることが予想される。メンバーは運動部活動の挫折に対する主な支援源であり、退部による関係の希薄化は従来の支援源の喪失にも繋がると考えられる。また、周囲の人間は、退部者に対する否定的イメージや、退部することが本人にとっての問題解決であるという先入観を持っている可能性があり、退部者の実際の困難には気が付きにくく、支援には至らないと考えられる。そのため、退部者は心理的困難や葛藤を持っていたとしても支援されることが少なく、悩みをひとりで抱え込んでしまうことが考えられる。

筆者は中学校から大学時代にかけて、様々な理由で運動部活動を退部していく者を多く見てきた。退部に関して悩みを抱えている者を目の前にしているにも関わらず、何もできないという不甲斐なさを痛感した。退部者がどのような困難を抱えていて、どのような支援を求めているのか、支援者として何ができるのかという設問から本研究に至った。

本研究では運動部活動退部経験者を対象に、退部経験の語りから退部支援に関するニーズを明らかにし、支援方法について検討した。本研究が、運動部活動の退部に対する認知の変容、退部者への関心の高まりに伴う支援可能性の増進、支援のあり方を検討するための一助とな

ることが考えられる。

なお，本論文は以下の 5 章から構成されている。

第 1 章では，運動部活動における不適応や退部の要因，退部予防について先行研究の動向をもとに問題の所在を示し，退部支援の必要性から本研究の目的について記述した。

第 2 章では，研究協力者やデータの収集方法，調査内容を示すとともに，研究方法やデータ分析方法の妥当性とその具体的な手続きを記した。

第 3 章では，実際のデータを示し，生成された概念とカテゴリーの説明をした。その結果から，結果図とストーリーラインを記述した。

第 4 章では，本研究の目的とてらして，退部者・退部希望者に対して有効であると考えられた支援について考察を行った。

第 5 章では，結果，考察をふまえて，本研究の限界と今後の課題を検討した。

第 1 章 問題と目的

1. 1 運動部活動について

文部科学省（1997）によると，運動部活動は学校教育の一環であり，競技力の向上を目指す中でスポーツの楽しさや喜びを味わい，豊かな学校生活を経験する活動である。生涯にわたるスポーツとの関わりと健康の増進，生徒の人間形成を運動部活動の基本的意義としている。

藤原・堺（2009）は，運動部活動に参加している中学生と運動部活動に参加していない中学生との比較から，運動部活動は生徒の人間関係を深め，学校生活を充実させ，学校生活の満足度を高める機能があることを示した。上野・中込（1998）は，運動部活動に参加している高校生が，どの部活動にも参加していない高校生より，人格形成に影響を及ぼすライフスキル（現在の生活を自ら自己管理・統制し，将来のライフイベントをうまく乗り切るために必要な能力（Danish, S.J. & Petitpas, A.J. & Hale, B.D., 1995））が高いことを示した。玉江・谷口・吉田（1998）では，中学校から運動部活動に参加している高校生の精神健康度が高いことや，運動部活動に参加している高校生は運動部活動に参加していない高校生に比べて精神健康度が高いことが示され，中学校から高校まで運動部活動を継続することが精神的健康の維持・増進に有益であると示した。

このように運動部活動の参加によるポジティブな効果が報告されている。

1. 2 運動部活動における不適応と退部

一方，発育・発達が著しい思春期という時期の主な身体活動の場である運動部活動と健康の関わりに目を向けると，必ずしも運動部活動が良い面ばかりとはいえない（玉江・谷口・吉田，1998）。先行研究を通覧すると，

所属する運動部活動に対して不適応を抱く者も多数見受けられ（青木・松本，1997；渋谷・西田・佐々木，2011；中込・伊藤・山本，2012；中村・高橋・寒川・友添，2015），そういった不適応を抱く者は，不適応が高まると競技継続の迷いや退部を訴えるようになる（中村他，2015）。青木・松本（1997）も同様に，「部活動は不適応感から潜在的な退部希望者を生む移ろいやすさを秘めている」と示している。

渋谷他（2011）は，部活動における不適応を，「部活動を行う主体である部員が，部活動の環境や自己の心理状態に対して十分に調和的な関係に達することができていない状態」と定義している。加えて，「引退の時期を迎える前に中途退部した」ことを，部活動の退部としている。

先行研究によって，運動部活動に対する不適応感は退部の要因となることが明らかにされてきた。具体的な要因としては，「人間関係のあつれき」，「他にしたいものがある」，「勉強との両立」，「けが」，「競技に対する興味や価値観の低下」，「部機能の低下」，「技能向上の停滞」，「非レギュラー」等がある（青木，1989；稲地・千駄，1992；中村他，2015）。

また，渋谷他（2011）は，運動部活動で不適応を示した中途退部者の，入部から中途退部後に至るまでのプロセスに伴ったストレス体験モデルを見出した。すなわち，①運動部の実態とは相まみえない期待を入部時に抱いているという先行条件がある。②運動部で直面する様々な困難への対処に必要なコーピング資源を有しておらず，不適応に陥る。③部活動に拒否感を持つことから自分らしさに関心を抱き，様々な葛藤を経験しながらも中途退部に向かう。④中途退部後，部活動から離脱したことによるネガティブな思いと，開放感という相反の感覚を体験する。⑤これまでの部活動のストレス体験を肯定的に評価し，それを今後の適応に繋げようとする心の動きを

体験する。

そして従来の研究では，退部の要因を明らかにすることや心理的ストレスを詳細に検討することが不適応や退部の予防に繋がると考えられ，退部予防の必要性が示唆されてきた（青木，1989；青木，2001；稲地・千駄，1992；渋谷他，2011；中村他，2015）。

1. 3 退部の予防

退部予防に関して，先行研究によって以下の知見が得られている。

中村他（2015）は，教育現場において生徒の訴えを受容的に傾聴し，不適応の原因となっている要因を見極め，それに基づいて人間関係，練習内容・量，指導方針等の改善を目的とした介入の必要性を示した。さらに，生徒を取り巻く指導者やチームメイト，親などの「重要な他者」によるソーシャルサポートの有効性が注目されていることを示した。

青木（2001）は，退部を予防する施策として「他者を理解・共感する人間関係を育む民主的な部活，各自の体力と技能にマッチした練習難度と練習量，勉強との両立が可能な練習量と疲労度，絶えず好奇心と意欲が喚起される活動内容と目標設定，そしてスポーツ外傷・障害発症を最小限にする予防や未完治状態での早期練習復帰の厳禁」が提案されていることを示した。しかし，いずれの予防策も，実際の教育現場の感覚との距離が大きく，現場において機能しているとはいえないことが指摘されている。

このように予防策が示されているにも関わらず，うまく機能していない理由として，退部を予防すること自体への妥当性が疑われる。退部予防とは，退部が否定的で望ましくない事象であることを前提に，「阻止すべき（渋谷他，2011）」と考えられ，必要とされてきた対策で

ある。渋谷他（2011）によると，退部が否定的であるという背景には，退部をスポーツ活動参加という枠組みで捉えてきたことが関係している。

1. 4 退部の否定的イメージ

先にあげてきた通り，退部を扱った研究は主に体育学的な枠組みで行われてきている。それ故に，そのほとんどの研究が，退部を否定的に捉えて問題視し，退部を阻止するために予防を勧めるという方向性を示唆している。

村尾（1997）によると，日本における運動部活動は，勝利至上主義や精神主義的な考えが理想化されているという特徴がある。渋谷他（2011）も，運動部員への積極的な活動参加を期待し，心身の強さを求める，体育学的視点から研究を始めている。そのような視点における退部は，「逃げのイメージ」という否定的なイメージが付きまとうという事実があり（渋谷他，2011），侮蔑的に見られ，劣等性のレッテルさえはられかねない（村尾，1997）とされている。そのため，体育学的な視点では，運動部活動の退部を予防しようとする方向に考えられやすい可能性がある。

したがって，先行の体育学領域によって得られた知見を参考に，別の領域からも退部に関する研究を進めていく必要がある。現在，先行研究にはほとんど見られていない心理学的立場から，従来の体育学研究では進められにくい，退部を支援するという在り方に注目することで，新たな知見が得られる可能性が考えられる。

1. 5 退部支援の必要性

運動部活動の退部は否定的に捉えられる傾向があるが，中学校および高校運動部活動は心理的ストレスラーとしての意味を持つことが指摘されており（管・上地，1996；岡安・嶋田・丹羽・森・矢富，1992），退部をすることで

運動部活動の継続による苦難から解放され、自分らしい生活を送れるようになる（渋谷他，2011）というように、退部は自分の精神的健康を守るための適切な対処であるとも考えられる。

一方、退部するにあたって、心理的ストレスを伴うことも事実である。Klint & Weiss（1986）によると、競技を辞める決意をする段階において、退部によって友達との接触を失うことや、辞めれば敗者となることへの恐怖を持っていることが示されている。その恐怖を和らげるために、辞めるための正当な理由を探し、怪我を故意に引き起こすという現状もあるとされている。また、渋谷他（2011）は、入部から退部後における心理的ストレス体験を明らかにし、今後の課題として、退部後の支援の必要性を示唆している。

以上のことから、退部を決意する段階から退部後も含めた、退部に関する一連のプロセスの中で、退部における心理的ストレス等への支援について具体的に検討する必要があると考えられる。しかし、退部の支援について焦点をあてた研究は行われていない。

また、体育学的視点からは予防の必要性が示されてきたが、退部希望者が必ずしも予防を求めているとは限らず、そこには当事者である実際の退部経験者の意見が含まれていないことが考えられる。つまり、当事者が何を求めているかによって、適切な支援方法も異なることが考えられるため、当事者の意見を聞く必要がある。

したがって、当事者の主観的な視点から、退部において当事者が本来求めている支援について明らかにする必要があると考えられる。

なお、本研究では、当事者の意見を支持した共感的な支援方法を検討した。そのため、渋谷他（2011）を参考に、退部支援を、「引退の時期を迎える前に退部を希望する者、また退部した者に対する共感的支援」と定義した。

1. 6 研究対象

本研究では，退部希望時から現在までといった，退部における一連の過程の中で運動部活動退部者・退部希望者が求める支援に注目するため，当事者である退部経験者の語りを研究対象とした。研究協力者は，中学校・高校時代に運動部活動に所属し，退部した経験を持つ，大学生以上の者とした。渋倉他（2011）によると，大学生は退部後にある程度の時間が経っていることによって，退部経験に関する自分の考えや気持ちを整理して語ることができる。退部後あまり時間が経過していない時期に退部経験について語ってもらうことは，研究協力者に不快感情を生じさせる可能性があるため（渋倉他，2011），本研究では大学生以上の者を対象とした。

研究協力者の選定にあたり，以下の3点を条件とした。

- 1) 中学校・高校時代に運動部活動に所属し，退部した経験を持つ者であること。
- 2) 退部経験日時からある程度時間が経っていること。
- 3) 退部経験が過去の出来事であると振り返ることができる者であること。

1. 7 質的研究法

退部経験者は，退部の要因や競技の違い等，個々の背景が異なることから，経験や語りも様々であることが考えられる。インタビューによって得られる質的データは，質問紙調査では得ることが困難な，特定の状況や個別性を反映した豊かな内容が含まれるという特徴がある（渋倉他，2011）。また，従来は声を出しにくかった，社会的に少数派である退部経験者の話を聞くことで，ほとんど知られていない現実，聞かれていない声を明るみに出し，語られることによって自己概念や自己と社会の関係の在り方が表される（やまだ2007）。そのため，本研究の運動部活動の退部に関する語りの検討に，質的研究法が適

している。

質的研究法における信頼性と妥当性の評価には，独自の基準が用いられている（渋谷他，2011）。やまだ（2007）は，質的研究の限界や欠点を低減するには，理論的記述や，研究の方法における再現可能性の追求が重要であるとしている。また，木下（2003）は，質的データ分析における分析方法と分析結果の適切さを確保するために，同一データを複数者で分析しその一致度を重視すること，データの扱い方とその手順を明示することが必要であるとしている。したがって，本研究においても，方法を具体的に明記し，複数者で分析に携わることにより，信頼性の確保に努めた。

1. 8 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ

「修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ」（Modified Grounded Theory Approach，以下，M-GTAと表記する）は，ヒューマンサービス領域における実践への還元を目的としたものであり，研究対象としている現象がプロセス的な特性を持っている。また，人間と人間が直接的にやりとりをする社会相互作用に関わる研究であり，かつ人間行動の予測と説明に優れた理論が説明できる。

本研究は，運動部活動の退部支援について，実際の教育や臨床現場への還元を目指している。また，退部経験というプロセスの中で，どのような支援が考えられるのか，インタビューにおいて研究協力者と共に探っていくという側面も有している。以上のことから，M-GTAが本研究に適していると判断した。

1. 9 本研究の目的

以上のことから，退部に関して経験した困難や葛藤等の心理的ストレス体験をふまえ，退部において当事者は

何を求めているのか，どのような支援を求めているのかを明らかにする必要があると考えられる。

本研究では，退部支援を考える際に，当事者である退部経験者のニーズに焦点を当てる。それによって，支援者は，退部者や退部希望者が求めているものに対して適切な対応をすることが可能になり，当事者の主体性が守られると考える。

また，実際の教育や臨床現場において退部者・退部希望者に注意が向けられ，支援可能性も広がるのではないかと考えられる。

したがって，本研究では，運動部活動退部経験者・退部希望経験者の語りから，退部希望時から現在までといった，退部における一連の過程に沿ってニーズを聞きとり，M-GTAを使用して退部者・退部希望者への支援を探索的に検討することを目的とする。

本研究が，運動部活動の退部に対する認識の変容，退部者・退部希望者への関心の高まりに伴う支援可能性の増進，支援の在り方を検討するための一助となると考えられる。

第 2 章 方法

2. 1 研究協力者のサンプリング

本研究の研究協力者を選定するため、縁故法により資料を配布し、本研究の対象として条件に該当する者を選定する理論的サンプリング（木下，2003）を行い、その中から同意が得られた者を研究協力者として選定した。配布資料の構成は以下のとおりである。

- 1) 研究協力者のお願い
- 2) インフォームドコンセント・倫理的配慮
- 3) 同意書の署名およびフェイスシート

フェイスシートでは、中学校・高校時代の運動部活動退部経験の有無、性別、競技種目、競技経験年数、過去最高成績、退部経験日時、退部要因、現在の退部経験の捉え方（以下5つの選択肢から1つ①今振り返ると、自分の成長に繋がる良い経験だったと思う②どちらかというところ、肯定的に受け止めることのできる良い経験だったと思う③良かったという思いとつらかったという思いが今でも整理できずに残っている④どちらかというところ、否定的で受け入れることのできない経験だったと思う⑤今でもまだ受け入れることのできない否定的な経験である）について回答を求めた。

2. 2 データの収集方法

研究協力者は、配布資料によって協力の承諾が得られた運動部活動退部経験者計8名（男性4名、女性4名）であった。研究協力者の属性はTable 1(p.12)に示した。分析過程においてデータ収集と分析を繰り返し、新たな概念生成と概念修正の必要がなくなった時点で理論的飽和（木下，2003）に達したとみなした。

Table 1
協力者の基本属性

協力者	性別	競技種目	経験年数	退部後 経過年数	退部理由	経験時	経験の 捉え方*
A	女性	卓球	半年	10年	人間関係	中1の半年頃	①
B	男性	陸上	1年	10年	人間関係	中2の終わり	②
C	女性	ハンドボール ソフトボール	約1ヵ月	6年	同級生がいない 家の事情	高校1年時	③
D	女性	ソフトボール	8ヵ月	8年	人間関係	高1の11月頃	②
E	女性	バスケットボール	7年	8年	勉強 人間関係・飽き	高校1年生	①
F	男性	剣道	1年	10年	けが・体力	中1入部半年	④
G	男性	卓球	3ヵ月	10年	勉強との両立	中1の7月頃	①
H	男性	サッカー	14年	7年	練習内容	高2の6.7月	②

* ①今振り返ると、自分の成長につながる良い経験だったと思う
 ②どちらかというと、肯定的に受け止めることのできる良い経験だったと思う
 ③良かったという思いとつらかったという思いが今でも整理できずに残っている
 ④どちらかというと、否定的で受け入れることのできない経験だったと思う
 ⑤今でもまだ受け入れることのできない否定的な経験である

研究協力者1人につき1回、50分程度の半構造化インタビューを実施した。実施場所と日時については研究協力者と相談のうえ、実施可能な場所と日時を決定した。調査は、2016年9月～11月の間に実施した。

2. 3 調査内容

本研究では、「退部経験者・退部希望経験者は退部において何を求めているのか」をリサーチ・クエスチョンとし、退部希望時から現在に至る、退部の一連の過程において、経験者がどのようなものを求めているのか、どのような支援を求めているのか、そのプロセスとニーズについて調査した。インタビューガイドは以下のとおりであった。

- 1) 退部経験について
- 2) 退部希望時から現在までの過程
- 3) 退部において求めていたもの
- 4) 退部希望時から現在までに求めていた支援
- 5) 退部希望時から現在までで実際に受けた支援とその感想

6) 退部することができた理由

7) 退部希望時の援助要請について

また，必要に応じて追求質問を行った。

インタビュー内容は研究協力者の同意のもとICレコーダーで録音し，逐語録に書き起こしたものをデータとした。

2. 4 倫理的配慮

研究にあたって，事前に研究の趣旨を説明し，研究協力への同意を得た。研究協力者には研究の目的，インタビューに要する時間，答えたくない内容には回答を拒否してもよいこと，途中で辞めたいと感じた場合にはいつでも辞めることができること，インタビューの記録は録音されること，内容データは研究目的以外では使用しないこと，研究協力者が特定されないように個人情報管理・記載に配慮すること等を，研究協力依頼時とインタビュー開始時に説明し，口頭と書面にて協力の承諾を得た。また，フェイスシートから得られた退部後の経過年数と退部経験に対する現在の認識を考慮し，インタビューにおいて研究協力者に極力負担がかからないように努めた。なお，プライバシーに配慮するため，個人情報となる具体的な名称等は順にアルファベットで表記した。

インタビュー実施にあたって，兵庫教育大学倫理審査委員会の承認を受けた（受付番号：11）。

2. 5 分析方法

データ分析の方法として，木下（2003，2007）を参照し，質的研究手法であるM-GTAを採用した。

分析手順は，木下（2003）を参考に，以下のとおり行った。

1) 逐語録データから概念を生成

分析テーマ（リサーチ・クエスチョン）と分析焦点者

（実際の退部者・退部希望者）に照らして，データの中から関連がありそうな箇所に着目した。それを一つの具体例（ヴァリエーション：各概念に該当するデータ）としてデータの背後にある意味の流れを読み取るように解釈し，概念を生成した。同時並行で他のデータとの関係を検討した。重複や統合可能な部分がないかの確認のため，類似の具体例が出現するたびに概念名と定義を確認し，修正または新たな概念を生成した。この流れを人数分繰り返した。

2) 分析ワークシート作成（概念と同数）

ワークシートには，概念名，その定義，具体例，理論的メモ（解釈上考えられる気付きやアイデア）を記入した。具体例をあげる際には類似例や対極例があるかをデータと照らして確認し，解釈が恣意的に偏る危険を防いだ。思考プロセスのなかで生じた疑問や概念に照らして解釈上考えられる気付きやアイデアは理論的メモ欄に記入した。分析ワークシートを何度も見返し，概念名と定義の修正を繰り返し，それ以上の修正の必要がなくなった時点で，概念の完成とした。最終的には新しい概念が生成されない段階となり，それにより理論的飽和に達したと判断した。

3) カテゴリー生成

最小単位の概念生成ができた後，作成した概念と他の概念の関係を検討し，いくつかの共通する概念をグループにまとめてカテゴリーを生成し，それにカテゴリー名をつけた。

4) 結果図作成

概念，カテゴリー相互の関係に基づいて分析結果をまとめ，結果図を作成した（Figure 1 p.41）。カテゴリー間の関係を検討し，関連づけられたカテゴリー間の因果関係や変化のプロセスを，矢印で表した。

5) ストーリーラインの作成

結果図の概要を簡潔に文章化し，ストーリーラインとした。

なお，分析過程において，調査者だけでなく，臨床心理学を専攻する大学院生 5 名で繰り返し検討を行うことで，分析の信頼性と妥当性の確保に努めた。

第 3 章 結果と考察

3. 1 分析過程

本研究では，計 8 名の研究協力者のインタビューから得られたデータを，M-GTA の手順にならって分析した。

まず，研究協力者 A～G の 7 名に対してインタビューを行った。その中から，分析テーマである，「退部経験者・退部希望経験者は退部において何を求めているのか」に関して，一番豊富なデータが含まれていると判断した，研究協力者 B を最初の分析対象として選定した。逐語録データから，分析テーマに関連のありそうな箇所を，具体例として抜き出した。その結果から 26 個の概念が生成された。生成された概念に加え，研究協力者 A の逐語録データからも，同じように関連のありそうな箇所を抜き出し，類似のデータを統合させて概念の修正を行った。また，統合が不可能であったデータや，相違のデータから，新たな概念の生成を行った。この流れを人数分繰り返し，研究協力者 C～G のデータの分析を終えたところで，42 個の概念が生成された。

次に，追加データ収集のため，研究協力者 H のインタビューを実施した。研究協力者 H の選定には，性別，競技種目，経験年数，退部理由に注目し，次に収集すべきデータを判断する理論的サンプリングを行った（木下，2003）。研究協力者 H の逐語録データを分析し，関連箇所の抽出と概念の修正，統合作業を行った。その結果，新たな概念は生成されず，修正の必要性も見られなかった。したがって，この時点で概念の完成とし，理論的飽和（木下，2003）に達したと判断した。

最終的に，8 名の研究協力者のデータから，42 個の概念と，16 個のカテゴリーが生成された。

3. 2 生成された概念

退部経験者の語りから，退部において求める支援について，42個の概念が生成された。Table 2（p.18-21）に概念と具体例の一部，Table 3（p.22）に概念と定義を示した。生成された概念の内容を以下に説明する。なお，概念は【 】, 定義は『 』, 具体例は「 」で記述した。

1) 総体的に本人を受け入れてくれる

【総体的に本人を受け入れてくれる】とは、『競技や立場にこだわらずに，総体として本人を見ていてくれること』である。具体例として，「あいつは競技レベルがへたくそだからああやとか，あいつは休むからああやとか，そういうの抜きにして僕を見ててくれてた感じ」「私を，すごく笑顔で受け入れてくれた」等があった。ここでは，特に退部後に最もこの支援を必要としていることが表現されたが，入部理由にも，【総体的に本人を受け入れてくれる】ことが支援として語られた。つまり，常時，部活動の競技レベルや立場を超えて，自分自身を受け入れてくれることを求めていることが示唆された。また，部活動の顧問の先生，先輩，同級生といった，部活動関係者に対してこのような支援を求めていることが語られた。

2) 退部後の所属先で受け入れてもらえる

【退部後の所属先で受け入れてもらえる】とは、『退部後の所属先にて，受け入れる体制でいてくれること』と定義される。具体例として，「受け入れてくれてる感を感じてる」「戻ったときに，やっぱ戻ってきたんかい！みたいなんは，嬉しかった」等があった。この支援は，退部後の所属感が重視され，必要とされていることが語られた。新しい所属先や，元の部活動に復帰した場合も含め，退部後に所属した先において，同級生や顧問の先生から，受け入れられることを求めていると表現された。

Table 2
概念と具体例(ヴァリエーション)

概念	具体例(ヴァリエーション)
総体的に本人を受け入れてくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・あいつは競技レベルがへたくすだからああやとか、あいつは休むからああやとか、そういうの抜きにして僕を見てくれてた感じがあったんで、先輩は好きでした、辞めてからも。(B74) ・顧問がそれでもいいよってってくれたうれしさよりも、他の部員が、私が戻ってくることを受け入れてくれたりとか、同じクラスだった部長が、ずーっと辞めた後も声かけてきてくれて、戻るきっかけも部長が、私が何度も断っても、それでも声かけてくれたって、そういうところはもう、あるうれしさだったりとか、すごく部員に対しても厳しい部長だったのに、週3しか出れない私を、すごく笑顔で受け入れてくれたっていうのが一番うれしかったです。(E37)
退部後の所属先で受け入れてもらえる	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れてくれる感を感じて、試合出すのもいいっていう感じ。私が勉強できないってこととか予備校通ってるっていうのは前から知ってるので、そういうのもあったから受け入れてくれるっていうのはありました(E60) ・まあ、来なよみたいな。受け入れてもらえてるんだなって。(G62) ・戻ったときに、おいやつば戻ってきたんかい！みたいなんは、嬉しかったかもしれん。(H93)
現実的な指摘をされる	<ul style="list-style-type: none"> ・あんた勉強も両立できひんし、それは自分も知ってたんですけど、そんなんを言われて(A89) ・後悔はありましたね。今ではもうないんですけど引きずってました。でも体験してから、代表者みたいな人ばかりで、私1ヵ月しかやってなかったんで、そこで区切りがついたというか、吹っ切れてそこから全然もう大丈夫(C120) ・自分も疲れてて、宿題もできない感じだった。いずれ決着はつけなあかんと思ってた時に親に言われたんで、いい頃合いだから辞めようって(G31)自分で考えるきっかけになったんでよかったなと思います。(G81)
間接的に気にかけてくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・最近練習に来てないけどどうやとか、たぶんまあ顧問の先生とか同期とか、先輩方とかが様子を見とってくれて、そっとしといた方がいいんじゃないかっていう感じだったんじゃないですかね。(F38)
教師間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問の先生が剣道の体育の先生だったんですけど、1年の時に担任もってもらった人が別の体育の先生だったんですけど、たぶんそこが連携してくれて、もともと、もともと運動が苦手なタイプで見とってくれみたいな連絡がたぶんあったと思うんですね最初から顧問のほうに、それがちょっと楽やったんかなっていう気はします。(F99)
退部の正式化	<ul style="list-style-type: none"> ・高校は中学と違ってすぐ辞めやすいんやっていうのに気付いたからやめようって思えました。伝統って言うですかね中学校は辞めづらい、辞めたいと思ってても、続けよかーみたいな、そういうのに関しては高校よかったです。なんでなのかわかんないですけど中学校は輪というかそういう雰囲気、辞めたらあかん環境っていうんですかもう入ったら辞めたらあかんっていう雰囲気。辞めた子が一人もいなかったからそういう雰囲気なのかなって。(G99~C103) ・部のほうから圧力がかかるとか、顧問から指導を受けるとかそういうような状況では全くなかったんで、だから退部届を出して正式に退部するかこのままズルズルというで落ち着けるのかっていう選択だけあったので。(F58)
退部を表明しやすい雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> ・辞めるって言うたら、いじめじゃないけどそういうのが起きるんちゃうかみたいなのがあったんで(A58) ・それこそ練習がきつすぎとか、中学生って敏感じゃないですか、思春期入って、例えば野球部やったら野球の練習がつらくて辞めて、楽な部活に逃げたとか、言い出しづらいんじゃないかなと。(G109)(G117) ・一応その先生が話しやすい間柄やったっていうのはあるかな(H44) ・先輩らとやった時間が長かったからそのレベルでやってた先輩のほうが話しやすい。時間の共有かな(H47)
影響力のある大人が聞き入れてくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・先生に言わな、先輩らとかに言っても意味ないから。(A105) ・当該部活以外の別の友達と相談しても、その部活に関して何か変わるわけじゃないじゃないですか、別にそこに相談しても解決にはならないような気がして(F57)そうなると先生の方が頼りになる、そっちに行くのが直接的(F58)
相談に乗ると持ち掛けてくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩が、話しよやって言ってくれた。悩んでんのかって相談乗ったんでみたいって言われてるときは嬉しい(B16) ・卓球で一番仲良かった子に、なんか悩んでることあるならいろいろ相談して言われて(A19)なんかあったら言いやーって。先輩方にも言われたんですけど。こんな私やけどいいんかなみたいな、大切に思ってくれてる。(A37) ・どうしたんっていう相談に、声をかけてもらうのもしなかったと思います(F71)

カウンセリングに 繋げてくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・部活行ってないやんみたいな、指導って感じの提示のされ方じゃなくて、部活行ってないけど、どうしたんっていうみたいな、相談とかカウンセリングっていう話の形でもって来られたらちょっと変わったかもしれないですね。(F56)特に自分を親身に見てくれる先生っていうのは存在として大きい、まあ心理的にいてくれると楽かな。(F64) ・言うけど、俺が本質としての練習内容やったからちょっと違うかもしれへんな(H29)
話や意見を聞いて くれる	<ul style="list-style-type: none"> ・私の意見聞いてくれてじゃあ辞めたらいいと思うよーって感じ(C90) ・ほんまに辞めたいと思ってるん？っていう親身に聞くっていう感じの言葉かな。お前辞めんなよとか、辞めるとかいうなよとかさ、そういうこと考えんなよ、とかっていうよりも、ほんまに辞めたいと思ってるんや、みたいな、話聞くでくらの感じの方がいいかな。(H38)
理解してくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんと話したら理解してくれたんで、それやったら仕方がないって、そういう意味ではよかったです(C48) ・伝わったんかな、口論しとるときにこっちは伝えとるはずやけど、伝わったんかな、伝わってないかな(H65) ・俺の考え理解できひんやつ、監督、そやな、俺のこの考え他のやつ理解してくれへんやろって感じだったのかもしれへん、どうせ言ってもしゃあない、もう部活辞めたし関係ないしなって。(H86)
共感してくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・親戚とかもありがたかったかも、部活辞めてんって言ったときに、うちの子ども部活辞めようか思ってた時期あったから分かるわーって(B60) ・共有したかったけど、そこは各々の、個人の考え方があるから、しゃないかなあみたいな(H30)
見解を伝え返して くれる	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスくれて(C90)お母さんはメリットデメリットしっかり考えて辞めるか辞めないか決めなさいって(C91) ・なんでそんなに気使ってやるの？別にそんな気使わんでいいんちゃん、たとえ入るきっかけの友達が教えてくれるって今教えてくれてないんやろって、そんな風に思うんやったら3年間しんどいやん、そやんなーって(D14)
支援を考慮して くれる	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちがサポートするして言ってくれた(C58) ・先輩は私らも対応をもっと改善するしとか言ってくれたのはうれしかった(C59) ・サポートしたいって言ってくれたんで、全然嫌な気持ちはしなかった(C80)
的確な対応をして くれる	<ul style="list-style-type: none"> ・一人になって暗くなることは今考えたらなかったんやろうけど、それでも、外に出てる間っていうのは紛れるんで、今考えたらそういうのは狙ってやってるんか、何でやってるんかわからなかったけどありがたかったですね。(B60) ・僕の心に立った時にどうしたらええんかなって考えてやってくれたんがお母さん(B63)
気持ちを汲み取っ てくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・僕の気持ちを一番代弁してくれて、僕の心に立った時にどうしたらええんかなって考えてやってくれた(B63) ・部活の先生は熱い人で、それくらいで負けるなーくらいの人だから気持ち汲み取ってくれてなかったのかな(C38) ・その子に言ってもその気持ちを汲み取ってくれるわけがないやんって、諦めもあったから(D22)
所属感の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・どこに行ったらいいかわからないので、幽霊っていう状態で、剣道部に行ったらいいのか無所属に行ったらいいのかちょっと分からない、あーどうしたらいいんやろなー気まずいなーっていうのはありましたね。(F87)
次のステップに 強く誘ってくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会どうやって言われたんですよ。陸上部に、お前が(生徒会)入っとったらボッコボコやわって言われた(B66)僕は陸上部の存在がなかったらやってもええかなって思いました。やっぱりそこでもうひと押し欲しかった(B67) ・他の部活入るってなったとき、関係が崩れることがこわかって入らんかったんですよ、てなったときに、いやいやいやもう何回も断ってんけど入れって言われてんっていう風に、仕立て上げたかったっていう感じはあります。(B68)

戻れる雰囲気をつくっていてくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・お前が戻ってきたいって思ったら戻っておいでって(B39)その先生が、部活やれる気になったかって言われたらたぶんやってた。もうみんななんも気にしいひんからおいでって言われたらたぶん入ってたと思いますね(B54) 認めつつ、待ってるねの一言があつたら嬉しかった(E50)
スポーツをする場の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・何かしたいけど、自分がスポーツに劣等感を感じてるから、主体的になにかに首を突っ込む勇気がない(B55) ・やっぱスポーツしたいわーみたいな言ったら、じゃあバスケ部入ったらって言われて、入ろうって。(C78) ・やり投げをしてみたいひんかって言われたのは別にうっとおしくはなかったかな、あーそんなあるんやーって(D78)
新しく何かをする場の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・バイトは、お母さんに、することないんやったら定期代稼げって。暇すぎてすることなかったんで(C85) ・担任の先生ももう僕が辞める辞めへんどうでもいいんですよ、でもお前部活辞めたんやろ、生徒会どうやって言われたんですよ。嬉しかったですよ嬉しかったけどやっぱりそこでもうひと押し欲しかった(B67)
勉強に切りかえる提案をされる	<ul style="list-style-type: none"> ・先生は、しゃあないなみたいな、人間トラブルは誰だってあるし、勉強と両立できひんのが一番あれやって、まあされやったら辞めて、勉強のほう優先しみたいな言ってもらえた。(A76)
引き留めない関わりをしてくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・向こうもお前にいてほしいみたいなこと言ってこなかったんで楽と言えば楽でしたね。まあ次のステップ進むうえで、障害にならなかったっていう、空手の先生みたいにもうちょっと考え直してとか言われたらしんどかった(G51)
引き留める関わりをしてくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・実際でも先生から引き留められるって思ってたから、引き留められへんねやっていう驚きの悲しみあった(B46) ・それを断った自分っていうのが罪悪感。でも言われたこと自体はうれしかったすごい。(C59) ・(退部したい)言ったときに、あ分かった！みたいなされるとそれはすごく悲しいと思う(E50)
個人の気持ちとして引き留めてくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩らはもう引退する際やったから、辞めるのはさみしいなーとかは言って(A106) ・友達としてはやめてほしくないけど、私がそう思うんだったら辞めてもいいっていう風に言ってくれたんで、それもあって余計辞めやすかったんやと思います。(C74)引き留める権利もないし、友達としてはやめてほしくないけど、っていう気持ちだけ言ってくれてあとはもうゆだねる。余計救われました。(C75)
能力を必要とされ引き留められる	<ul style="list-style-type: none"> ・肩が強かったんですよ、それで先生的には育てたかったっていうのもあるんでしょうね(C46) ・できるだけ早くやめたい、って思ってたのに、顧問がおってくれおってくれ必要やから必要やからっていうのを永遠と語られて、やりたくないもうしんどいんです、っていうのを言ってやっと向こうが折れてくれた。(D51) ・先輩らが頑張って練習してきてその試合前に辞めるんかーみたいな感じで結構言われちゃって、後輩として応援してやる立場じゃないんかみたいな言われた。(C41)
退部を勧められる	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問の先生に呼ばれて、お前の顔みたら、今まだ陸上に復帰できる顔じゃないから、1回辞めろって(B16) ・辞めればって、勧めるじゃないけど、支援的な感じを受けて、ふーんそんな考えあるんやーみたいな。(D18) ・俺から辞めるって言ったからな、辞めろ言われても、うん、そやな、ありがとうって、その通りやって。そこで引き留められても辞めるのをやめへんわっていう感じかな。(H62)
退部への肯定的意見	<ul style="list-style-type: none"> ・辞めたことに対して、なんで？って思う子が多い、じゃないですか中2って特に、そのなかで、やめることに対して肯定的な意見をくれる人ってありがたかったですね。(B60) ・別にやめてよかったんやなーって言うのは結構あったので自分の中で、そこで吹っ切れました。(C121)

意思を尊重してくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・辞めるのは自分の意思やから、それはもう好きになようにって。(A40) ・辞めやすいほうがいいです。意見尊重してほしいっていうのであれば絶対高校。(C106) ・顧問の先生が理解してくれてて、何も触れられずに、抜けさしてもらえた。(F76)
退部を容認・許可してくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・退部を受け入れてくれるんやったら何も言わずに受け入れてほしかった。(C44) ・早く辞めさしてよっていう感じ。(D56) ・えって思いました。辞めたいのに辞めさしてくれへんでなんやねんっていうのはありました結構。(C37)
理由を追求しない配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・なんで辞めたん？って言われるんですけど、あんまり触れなくなかったらから、そこはあえて、勉強と両立できひんって言ったら、そなん私も一緒にやりたいな言われたんですけど。(A63) ・辞めた理由とか聞かれるのは嫌やった、なかったけど。関係性を問われるとか(D81)
部活動を遠ざけてくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・気分変わってくれる存在ですね、いらんこと余計なこと一切考えんていいっていう(B61) ・辞めてからほんとにソフトボール部のメンバー、クラス以外の、メンバーと先生とか先輩とか一切関わりが全くない状態やったから、メールとかもないし、辞めたら一切のシャットアウト。(D68)
部活動と学校生活の切り離し	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部に指示があるときってあるじゃないですか、部に、これはこうしてって役割分担があるときはちょっと気まずい(F2)くくりで動かされること自体が苦痛。そういうのをオープンにしてほしくはなかった、部活で何かやるんやったら、部活内で指示してもらって、そこはちょっとなかなか動きづかったところではありますね。(F90、91)
退部仲間	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に辞めようやみたいない感じで、辞めることを誘われとって(B16)ビジネスパートナーみたいなそんな感じ(B30) ・その子も退部した子やったんですよ。だから余計、あ一緒に帰ろーあたしもやしーみたいない感じでした。(C113)
同じ境遇の者で分かち合う	<ul style="list-style-type: none"> ・お互い何で辞めたん、みたいなのを結構話しました最初の頃は。そやんなーわかり合える部分があったんで、そこで結構仲良くなって。(C114) 厳しいよなそんな好きでもないのにこんな厳しいのしんどいよなーみたいない、言って軽くなる。もともとクラスでも仲良かったんで余計ですかね。お前も退部したんってなって。(C115)
挨拶をしてくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・しゃべりかけないほうがいいんだなって挨拶も、気づかないふり(C53) あっちから来てくれたら全然挨拶した(C71) ・廊下とか歩いているときは普通に挨拶(G71) ・夏休み明けから、こう、あっちから挨拶とかしてきたから、こっちも挨拶返して。(H73) ・やっぱり無視っていうのはよくないね。まあ互いに無視やったけど。(H74)
話しかけてくれる	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩とかはしゃべりかけてこないんで、罪悪感感じるあー怒ってんねんあーって。(C51) ・来てくれた方が、気小さいから、あっちから来てくれた方が、こっちとしてはそれが一番退部してよかった。(C98) ・挨拶とかしてくれるようになって、でそっからちょっとまた日がたって、話しかけてくるようになって、それはまた普通に会話としてね、挨拶じゃなくて。最近どうやーとか、で、最終的に戻ってこーへんみたいない感じになったはず。(H77)
変わらない関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問は、ピークがあるけど、同じように谷もある感じかな、先輩はずーっと一直線で感じ。情熱も一人の生徒に対しての情熱のかけ方とか(B76) ずーっと見てるでって(B77) ・辞めないでって言われた時は友達が離れるかもって思ったんですけど、関係なく普通に話してくれた(A29) ・退部した後も、よく知ってる生徒として、顧問ではないけど、いろいろ話せる先生だみたいな信頼関係(F60～62)
継続的な関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で一緒に飲みましたしね。そうっすね、先輩と仲良かったかも(B73) ・今も仲いいんですよ。その時も仲良くて、今も遊びに行ったりご飯行ったりして。(A16、17) ・今でも付き合いある人はいますね(G14)
普遍的な関係の保証	<ul style="list-style-type: none"> ・退部してええよただ、退部したところでお前のこと嫌いになったりとかもせえへんし、もうなんも気にしてへんからみたいない言われる方が、僕はよかった。(B37) ・辞めても、卓球の人らが、辞めても友達やからみたいない言われた。(A32)
部活外における友達との深い関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・辞めたらその部活やってない子としゃべるようになったんでそこでまた新しい増えたっていうのはよかった(C110) ・前から仲よかってんけど、部活あるから使ってる時間が違うかってん、だから時間があいたから、そいつらと遊ぶようになった(H83) そいつとおるほうが増えたな、関係性が変わったとしたらそこ(H89)

Table 3
概念と定義

概念	定義
総体的に本人を受け入れてくれる	競技や立場にこだわらずに、総体として本人を見ていてくれること
退部後の所属先で受け入れてもらえ	退部後に所属した先にて、受け入れる体制でいてくれること
現実的な指摘をされる	部活動や競技から離れることに折り合いをつけられるように、客観的な現実を突きつけられること
間接的に気にかけてくれる	知らないところで、間接的に気にかけていてくれること
教師間の連携	教師同士が連携して本人のことを考えてくれること
退部の正式化	前例があるなど、学校として退部が公に認められていること
退部を表明しやすい雰囲気	退部したいことや、退部届を出すことに関して、言い出しやすい雰囲気や言っても大丈夫な雰囲気をつくっておくこと
影響力のある大人が聞き入れてくれる	退部に関して直接的に影響力のある大人に相談できる
相談に乗ると持ち掛けてくれる	部活に行きにくくなった時、異変に気づき、相手から相談を持ち掛けてくれる
カウンセリングに繋げてくれる	本質を相談できるカウンセリング様の機関や人に繋げてくれること
話や意見を聞いてくれる	親身になって話や意見を傾聴すること
理解してくれる	話を聞き、わかってくれること
共感してくれる	話を聞き、共有し、共感的に関わってくれること
見解を伝え返してくれる	話を聞いて、考え、具体的にアドバイスや意見をくれること
支援を考慮してくれる	対応の改善やサポートを考えてくれること
的確な対応をしてくれる	理解し、的確な関わり方をしてくれること
気持ちを汲み取ってくれる	話や行動から、気持ちをわかろうとしてくれること
所属感の提供	無所属感から、次の居場所を提供してくれる
次のステップに強く誘ってくれる	次のステップに何度も誘ってくれる、強く推してくれること
戻れる雰囲気をつくっていてくれる	一度退部しても、また戻ってきてもいいと言ってくれる
スポーツをする場の提供	他にもスポーツができる場所・部活などを勧めてくれる
新しく何かをする場の提供	別の所属場所や、スポーツ以外のやる事を勧めてくれること
勉強に切りかえる提案をされる	部活をしない代わりに、勉強を頑張るように勧められること
引き留めない関わりをしてくれる	何も言わないでいてくれること
引き留める関わりをしてくれる	退部希望時に、引き留めてくれること
個人の気持ちとして引き留めてくれる	理解してもらったうえで、個人的な気持ちとして引き留めてくれること
能力を必要とされ引き留められる	競技力や人数において、能力を必要とされる
退部を勧められる	退部希望時に、相手から退部することを勧められること
退部への肯定的意見	退部に関して、肯定的な意味合いを持てるようになること
意思を尊重してくれる	本人の意思を優先し、尊重してくれること
退部を容認・許可してくれる	相手にとって妥当な退部理由を話し、退部を許してもらえ、認めてもらえること
理由を追求しない配慮	退部について、なぜ辞めたのか、理由を聞くことなく配慮してくれること
部活動を遠ざけてくれる	部活動のことを考えなくてもよいように距離を取り、忘れさせてくれること
部活動と学校生活の切り離し	部活動の所属と学校生活の役割を別々にすること
退部仲間	退部を誘われたり、一緒に辞めた仲間
同じ境遇の者で分かち合う	退部者同士で話し合い、共感すること
挨拶をしてくれる	退部後に会ったとき、相手から挨拶をしてくれること
話しかけてくれる	退部後に会ったとき、相手から話しかけてくれること
変わらない関わり	退部前と同じように関係を保ち、変わらない態度でいてくれること
継続的な関わり	歳月が経った後にも良好な関係であること
普遍的な関係の保証	退部の決断において、退部をしても、現在ある関係は変わらないと伝えてくれること
部活外における友達との深い関わり	部活をしていた時とは別の友達が関わってくれたこと

3) 現実的な指摘をされる

【現実的な指摘をされる】とは、『部活動や競技から離れることに折り合いをつけられるように、客観的な現実を突きつけられること』と定義される。具体例として、「自分も疲れてて、宿題もできない感じだった。いずれ決着はつけなあかんと思ってた時に親に言われたんで、いい頃合いだから辞めようって自分で考えるきっかけになったんでよかったなと思います」等があった。ここでは、客観的な立場から、現実的な指摘をされることで、自分自身と向き合う機会となったことや、気持ちに折り合いをつけるきっかけとなることが語られた。退部希望時や、退部後において、自分を客観視し、選択・判断することが支援に繋がると表現された。

4) 間接的に気にかけてくれる

【間接的に気にかけてくれる】とは、『知らないところで、間接的に気にかけていてくれること』と定義される。具体例として、「顧問の先生とか同期とか、先輩方とかが様子を見とってくれて、そっとしといた方がいいんじゃないかっていう感じだった」等があった。ここでは、退部希望時や退部後において、部活動の顧問や同級生、先輩から、気にかけてもらうという支援が必要とされていることが表現された。

5) 教師間の連携

【教師間の連携】とは、『教師同士が連携して本人のことを考えてくれること』と定義される。具体例として、「顧問の先生が体育の先生、1年の時に担任もってもらった人が別の体育の先生、たぶんそこが連携してくれて、もともと運動が苦手なタイプで見とってくれみたいな連絡がいったと思うんです最初から顧問のほうに、それがちょっと楽やったんかなっていう気はします」等

があった。この支援は，入部後から退部希望時，退部後にかけて，継続的に，本人の周囲の大人同士が本人のことを考えていてくれる支援を求めていることが表現された。その中でも特に，顧問の先生と担任の先生や，監督と顧問の先生等，教師間での連携が求められているとされた。

6) 退部の正式化

【退部の正式化】とは，『前例があるなど，学校として退部が公に認められていること』と定義される。具体例として，「高校は中学と違ってすぐ辞めやすい」「中学校は輪というか辞めたらあかん環境，入ったら辞めたらあかんっていう雰囲気」等があった。この支援は，環境的な支援であり，学校や各部活動によって部活動の在り方の違いがあることが語られた。その中でも，退部希望時や退部後に，過去にも退部した者がいたことや，退部の手続きの方法を知っておくことが支援になると表現された。

7) 退部を表明しやすい雰囲気

【退部を表明しやすい雰囲気】とは，『退部したいことや，退部届を出すことに関して，言い出しやすい雰囲気や言っても大丈夫な雰囲気をつくっておくこと』と定義される。具体例として，「辞めるって言うたら，いじめじゃないけどそういうのが起きるんちゃうかみたいなのがあった」「先生が話しやすい間柄やった」等があった。ここでは，退部希望時にスムーズに退部に向かうための支援であることが語られた。退部が否定的なイメージを持っているために，そのレッテルをつけられることへの恐怖や，周囲に理解してもらえないのではないかという不安に対して，退部を切り出しやすい人や雰囲気が支援となることが表現された。

8) 影響力のある大人が聞き入れてくれる

【影響力のある大人が聞き入れてくれる】とは、『退部に関して直接的に影響力のある大人に相談できる』と定義される。具体例として、「先生に言わな，先輩らとかに言っても意味ない」「別にそこに相談しても解決にはならないような気がして，そうなると先生の方が頼りになる」等があった。ここでは，退部希望時において，親や部活動で一番立場の上の先生，担任の先生等，退部したいという状況に対して何かしらの影響を及ぼすことができる大人の存在を求めていることが語られた。

9) 相談に乗ると持ち掛けてくれる

【相談に乗ると持ち掛けてくれる】とは、『部活に行きにくくなった時，異変に気付き，相手から相談を持ち掛けてくれる』と定義される。具体例として，「なんか悩んでることあるならいろいろ相談しって言われて」等があった。ここでは，退部希望時に，先輩や顧問，同級生から，この支援を受けることを求めていると語られた。退部希望者は退部したいという気持ちを自ら表現することが難しいため，自分から相談を持ち掛けるよりも，気づいてくれ，相手から相談に乗ると持ち掛けてくれる方が話しやすいことが表現された。

10) カウンセリングに繋げてくれる

【カウンセリングに繋げてくれる】とは、『本質を相談できるカウンセリング様の機関や人に繋げてくれること』である。具体例として，「部活行っていないけど，どうしたんっていうみたいな，相談とかカウンセリングっていう話の形でもって来られたらちょっと変わったかもしれない」「特に自分を親身に見てくれる先生っていうのは存在として大きい，心理的にいてくれると楽」等があった。この支援は，退部希望時，退部時，退部後とい

う段階において求められていることが語られた。友達には本当に相談したい内容を相談できない場合があることや、誰に相談すればいいのか分からない場合があると表現された。

11) 話や意見を聞いてくれる

【話や意見を聞いてくれる】とは、『親身になって話や意見を傾聴すること』と定義される。具体例として、「親身に聞くっていう感じの言葉かな。お前辞めんなよとか、辞めるとかいうなよとかさ、そういうこと考えんなよ、とかっていうよりも、ほんまに辞めたいと思ってるんや、みたいな、話聞くでくらいの感じの方がいい」等があった。この支援は、退部前や退部後に求められていると表現された。【カウンセリングに繋げてくれる】支援を必要としているが、実際の相談相手はクラスの友達や母親、部活の同級生に留まっていることが語られた。

12) 理解してくれる

【理解してくれる】とは、『話を聞き、わかってくれること』と定義される。具体例として、「ちゃんと話したら理解してくれた」「伝わったんかな、伝わってないんかな」「俺のこの考え他のやつ理解してくれへんやろって感じだったのかもしれへん、どうせ言ってもしやあない」等があった。この支援は、退部前、退部時、退部後、と広範囲の段階において求められていることが表現された。理解してほしい対象としては、顧問の先生、母親、部活の同級生が語られた。

13) 共感してくれる

【共感してくれる】とは、『話を聞き、共有し、共感的に関わってくれること』と定義される。具体例として、「部活辞めようか思ってた時期あったから分かるわーっ

て」「共有したかったけど，そこは各々の，個人の考え方があるから，しゃーないかな」等があった。ここでは，退部前に相談をした際，退部をしたい気持ちを共有してほしかったことや共感的に聞いてほしかったこと，退部後に相談した際に共感してくれたことが表現された。共感してくれた対象として親戚や家族，共有できなかった対象として部活の同級生があげられた。

14) 見解を伝え返してくれる

【見解を伝え返してくれる】とは、『話を聞いて，考え，具体的にアドバイスや意見をくれること』と定義される。具体例として，「お母さんはメリットデメリットしっかり考えて辞めるか辞めないか決めなさいって」等があった。ここでは，退部前の相談の時点において，今後どうすべきかを具体的に考えてくれたり，アドバイスをくれたりする支援を必要としていることが語られた。対象としては，母親やクラスの友達からの視点を必要としていることが表現された。

15) 支援を考慮してくれる

【支援を考慮してくれる】とは、『対応の改善やサポートを考えてくれること』と定義される。具体例として，「サポートするし，対応をもっと改善するしとか言ってくれたのはうれしかった」等があった。ここでは，退部希望時や退部時に必要とされる支援であることが語られた。また，主に先輩からの支援であると表現された。当事者からは，配慮してくれようとする気持ちは嬉しかったが，それにも関わらず退部してしまったことが罪悪感に繋がったと語られた。

16) 的確な対応をしてくれる

【的確な対応をしてくれる】とは、『理解し，的確な

関わり方をしてくれること』と定義される。具体例として、「どうしたらええかなって考えてやってくれた」等があった。この支援は、退部希望時や退部後に受けてうれしかったことが語られた。

17) 気持ちを汲み取ってくれる

【気持ちを汲み取ってくれる】とは、『話や行動から、気持ちをわかろうとしてくれること』と定義される。具体例として、「僕の気持ちを一番代弁してくれて」「それくらいで負けるな—くらいの人だから気持ち汲み取ってくれてなかった」「その子に言ってもその気持ちを汲み取ってくれるわけがないやんって、諦め」等があった。ここでは、退部希望時や退部時において、母親や顧問の先生、部活の同級生から、気持ちを汲み取ってもらいたいということが語られた。特に、部活関係者から気持ちを汲み取ってもらえないと判断した場合、その後の関係が良くないものとなったことが表現された。

18) 所属感の提供

【所属感の提供】とは、『無所属感から、次の居場所を提供してくれる』と定義される。具体例として、「部に行ったらいいのか無所属に行ったらいいのか分からない」等があった。ここでは、退部届を出すか出さないかという時期、幽霊部員であった時期に求めている支援であったことが語られた。

19) 次のステップに強く誘ってくれる

【次のステップに強く誘ってくれる】とは、『次のステップに何度も誘ってくれる、強く推してくれること』と定義される。具体例として、「僕は陸上部の存在がなかったらやってもええかなって思いました。やっぱりそこでもうひと押し欲しかった。他の部活入るってなった

とき、関係が崩れることが怖かって入らんかったんですよ、いやいやいやもう何回も断ってんけど入れって言われてんっていう風に、仕立て上げたかった」等があった。この支援は、退部希望時や退部後に、次に進むために必要であることが表現された。ここでは、次に進みたい気持ちと、退部して別のところへ行くと周りとの関係が崩れるのではないかという恐れが語られ、次に進むために、周りも納得できるような理由が欲しいことが表現された。そこで、教師という立場から、次に進むことを強く誘われるといった支援が必要であると語られた。

20) 戻れる雰囲気をつくってしてくれる

【戻れる雰囲気をつくってしてくれる】とは、『一度退部しても、また戻ってきてもいいと言ってくれる、戻れる雰囲気をつくってしてくれる』と定義される。具体例として、「戻ってきたいって思ったら戻っておいでって」「待ってるねの一言があったら嬉しかった」等があった。この支援は、退部時や退部後に、顧問の先生や、部活の同級生に対して求めていたことが語られた。

21) スポーツをする場の提供

【スポーツをする場の提供】とは、『他にもスポーツができる場所・部活などを勧めてくれる』と定義される。具体例として、「スポーツに劣等感を感じてるから、主体的に突っ込む勇気がない」「スポーツしたいわーみたいな言ったら、じゃあバスケ部入ったらって言われて、入ろうって」等があった。ここでは、退部後にスポーツがしたいことを表明した際に、教師や友達から他の運動部活動に誘ってほしいということが語られた。

22) 新しく何かをする場の提供

【新しく何かをする場の提供】とは、『別の所属場所

や，スポーツ以外のやる事を勧めてくれること』と定義される。具体例として，「お母さんに，することないんやったら定期代稼げって」等があった。ここでは，退部後にできた時間の使い方について語られた。部活を退部しても支える存在として，母親や担任の先生から，新しい所属場所が勧められる必要があると表現された。

23) 勉強に切りかえる提案をされる

【勉強に切りかえる提案をされる】とは，『部活をしない代わりに，勉強を頑張るように勧められること』と定義される。具体例として，「辞めて，勉強のほう優先してみたいな言ってもらえた」等があった。ここでは，退部時，退部後に顧問の先生から，このような支援があったことが語られた。

24) 引き留めない関わりをしてくれる

【引き留めない関わりをしてくれる】とは，『何も言わないでいてくれること』と定義される。具体例として，「言ってこなかったんで楽」「考え直してとか言われたらしんどかった」等があった。ここでは，退部希望時に，引き留められないことを必要としていたことが語られた。

25) 引き留める関わりをしてくれる

【引き留める関わりをしてくれる】とは，『退部希望時に，引き留めてくれる』と定義される。具体例として，「引き留められるって思ってたから，引き留められへんねやっていう驚きの悲しみあった」「言われたこと自体はうれしかったすごい」等があった。これは，退部希望時に，顧問の先生や先輩に対して求める支援であることが表現された。

26) 個人の気持ちとして引き留めてくれる

【個人の気持ちとして引き留めてくれる】とは、『個人的な気持ちとして引き留めてくれること』と定義される。具体例として、「友達としてはやめてほしくないけど、っていう気持ちだけ言ってくれてあとはもうゆだねる。余計救われました」等があった。この支援は、退部希望時、退部時、退部後にかけて必要とされた支援であることが語られた。その対象としては、部活の顧問、先輩、同級生という部活関係者が表現された。

27) 能力を必要とされ引き留められる

【能力を必要とされ引き留められる】とは、『競技力や人数において、能力を必要とされる』と定義される。具体例として、「肩が強かったんですよ、それで先生的には育てたかったっていうのもあるんでしょうね」「後輩として応援してやる立場じゃないんかみたいな言われた」等があった。ここでは、退部希望時、退部時、退部後において、顧問の先生や先輩から、このような声かけがあったことが語られた。この支援に対しては、「うれしかった」という意見と「苦痛に感じた」という意見があり、退部後において罪悪感に繋がるということが表現された。

28) 退部を勧められる

【退部を勧められる】とは、『退部希望時に、相手から退部することを勧められること』と定義される。具体例として、「今まだ陸上に復帰できる顔じゃないから、1回辞めろって」「辞めればって、勧めるじゃないけど、支援的な感じを受けて」等があった。この支援は、退部希望時に必要であることが語られ、クラスの友達や母親、顧問の先生が支援者となり得る存在であることが表現された。

29) 退部への肯定的意見

【退部への肯定的意見】とは、『退部に関して、肯定的な意味合いを持てるようになること』と定義される。具体例として、「やめることに對して肯定的な意見をくれる人ってありがたかった」「別にやめてよかったんやなーって」等があった。ここでは、退部後にこの支援が必要であることが語られた。

30) 意思を尊重してくれる

【意思を尊重してくれる】とは、『本人の意思を優先し、尊重してくれること』と定義される。具体例として、「自分の意思やから、それはもう好きなようにって」「意見尊重してほしい」等があった。ここでは、退部希望時、退部時においてこの支援が必要であることが表現された。主な支援者としては、顧問の先生、父親、母親、友達があげられた。

31) 退部を容認・許可してくれる

【退部を容認・許可してくれる】とは、『相手にとって妥当な退部理由を話し、退部を許してもらえ、認めてもらえること』と定義される。具体例として、「退部を受け入れてくれるんやったら何も言わずに受け入れてほしかった」「辞めたいのに辞めさしてくれへんてなんやねん」等があった。この支援は、退部希望時、退部時の顧問の先生との関わりにおいて必要であるとされた支援であった。退部の意思が固まっている状況で退部を許してもらえなかった場合、退部することが罪悪感に繋がるということが語られた。また、退部を許してもらえないために、顧問の先生や部活のメンバーが納得し、退部を許してくれるような退部理由を探さなければならないということが語られた。

32) 理由を追求しない配慮

【理由を追求しない配慮】とは、『退部について、なぜ辞めたのか、理由を聞くことなく配慮してくれること』と定義される。具体例として、「あんまり触れたくなかった」「辞めた理由とか聞かれるのは嫌やった」等があった。ここでは、退部理由を聞かれる対応は大抵望まれていないということが語られた。

33) 部活動を遠ざけてくれる

【部活動を遠ざけてくれる】とは、『部活動のことを考えなくてもよいように距離を取り、忘れさせてくれること』と定義される。具体例として、「気紛らわしてくれる存在ですね、いらんこと余計なこと一切考えんない」等があった。ここでは、退部後において、クラスの友達や部活の同級生、先輩から、この支援が必要であること語られた。また、期間的に部活動から遠ざけられるということ好印象であることが表された。

34) 部活動と学校生活の切り離し

【部活動と学校生活の切り離し】とは、『部活動の所属と学校生活の役割を別々にすること』と定義される。具体例として、「部活で何かやるんやったら、部活内で指示して」等があった。この支援は、退部後に必要とされた支援であった。

35) 退部仲間

【退部仲間】とは、『退部を誘われたり、一緒に辞めた仲間』と定義される。具体例として、「辞めることを誘われとって」等があった。ここでは、退部希望時、退部時に、同じ境遇にいる部活の同級生やクラスの友達の存在について語られた。

36) 同じ境遇の者で分かち合う

【同じ境遇の者で分かち合う】とは、『退部者同士で話し合い，共感すること』と定義される。具体例として，「お互い何で辞めたん，みたいなのを結構話しました」「好きでもないのにこんな厳しいのしんどいよなーみたいな，言って軽くなる」等があった。この支援は，退部希望時や退部時，退部後に同じ境遇の者同士で行われるということが語られた。

37) 挨拶をしてくれる

【挨拶をしてくれる】とは、『退部後に会ったとき，相手から挨拶をしてくれること』と定義される。具体例として，「歩いてるときは普通に挨拶」「挨拶も，気づかないふり」「あっちから来てくれたら挨拶した」等があった。ここでは，退部後において，顧問の先生，先輩，部活の同級生といった部活関係者からの挨拶が支援となることが語られた。退部をした罪悪感により，自分から挨拶はしにくいため，相手の方から挨拶をしてくれることを望み，挨拶をしてくれることで，許されたという印象を持つことも表現された。

38) 話しかけてくれる

【話しかけてくれる】とは、『退部後に会ったとき，相手から話しかけてくれること』と定義される。具体例として，「しゃべりかけてこないんで，罪悪感感じるあー怒ってんねんなーって」「気小さいからあっちから来てくれた方が，こっちとしてはよかった」「挨拶とかしてくれるようになって，でそっから話しかけてくるようになって」等があった。ここでは，退部後に，顧問の先生や先輩からこの支援を求めていることが語られた。

39) 変わらない関わり

【変わらない関わり】とは、『退部前と同じように関係を保ち，変わらない態度でいてくれること』と定義される。具体例として，「顧問は，ピークがあるけど，同じように谷もある感じかな，先輩はずーっと一直線で感じ。情熱も一人の生徒に対しての情熱のかけ方とか，ずーっと見てるでって」「顧問ではないけど，いろいろ話せる先生みたいな信頼関係」等があった。ここでは，退部後において，顧問の先生や，先輩，部活の同級生といった部活関係者からの，変わらない関わりを求めていることが語られた。

40) 継続的な関わり

【継続的な関わり】とは、『歳月が経った後にも良好な関係であること』と定義される。具体例として，「今も遊びに行ったりご飯行ったり」等があった。ここでは，退部後，また，終了して在 schools を卒業した後まで関わりが続いていることが良かった点として語られた。支援者としては，部活の同級生や先輩があげられた。

41) 普遍的な関係の保証

【普遍的な関係の保証】とは、『退部の決断において，退部をしても，現在ある関係は変わらないと伝えてくれること』と定義される。具体例として，「退部してええよただ，退部したところでお前のこと嫌いになったりとかもせえへんし，もうなんも気にしてへんからみたいな言われる方が，僕はよかった」「辞めても友達やからみたいな言われた」等があった。ここでは，退部希望時，退部時において，顧問の先生や，先輩，部活の同級生といった部活関係者からのこの支援が必要であることが語られた。

42) 部活外における友達との深い関わり

【部活外における友達との深い関わり】とは、『部活をしていた時とは別の友達に関わってくれたこと』と定義される。具体例として、「辞めたらその部活やってない子としゃべるようになった、また新しい友達増えたっていうのはよかった」「時間があいたから、そいつらと遊ぶようになった、そいつとおるほうが増えた」等があった。ここでは、退部をしたことによって、今までの交友関係とは別の友達と新しく仲良くなったことや、今までの交友関係がより深まったとことが語られた。

3. 3 生成されたカテゴリー

ひとつひとつの概念同士の関係を検討し、カテゴリーを生成した。最終的なカテゴリー数は 16 個であった。Table 4 (p.37) に、各概念とそれによって生成されたカテゴリーを示した。以下に、カテゴリーの内容と、生成において着目した表現について記す。カテゴリー名を<>で記載した。

1) 受容

このカテゴリーは、【総体的に本人を受け入れてくれる】【退部後の所属先で受け入れてもらえる】の 2 個の概念から構成された。“受け入れられたい”という共通のニーズから、<受容>とした。

2) 客観的な支援

このカテゴリーは、【現実的な指摘をされる】【間接的に気にかけてくれる】【教師間の連携】の 3 個の概念から構成された。“客観的な視点からサポートしてもらっていた”という語りから、<客観的な支援>とした。

Table 4
概念とカテゴリー

カテゴリー	概念
受容	総体的に本人を受け入れてくれる 退部後の所属先で受け入れてもらえる
客観的な支援	現実的な指摘をされる 間接的に気にかけてくれる 教師間の連携
退部しやすい環境	退部の正式化 退部を表明しやすい雰囲気 影響力のある大人が聞き入れてくれる
相談先の提供	相談に乗ると持ち掛けてくれる カウンセリングに繋げてくれる
相談	話や意見を聞いてくれる 理解してくれる 共感してくれる 見解を伝え返してくれる
対応	支援を考慮してくれる 的確な対応をしてくれる 気持ちを汲み取ってくれる
次に進むための支援	所属感の提供 次のステップに強く誘ってくれる
次の選択肢	戻れる雰囲気をつくってしてくれる スポーツをする場の提供 新しく何かをする場の提供 勉強に切りかえる提案をされる
引き留める関わり	引き留めない関わりをしてくれる 引き留める関わりをしてくれる 個人の気持ちとして引き留めてくれる 能力を必要とされ引き留められる
退部の後押し	退部を勧められる 退部への肯定的意見
退部の承認	意思を尊重してくれる 退部を容認・許可してくれる
部活動の回避	理由を追求しない配慮 部活動を遠ざけてくれる 部活動と学校生活の切り離し
ピアサポート	退部仲間 同じ境遇の者で分かち合う
コミュニケーション	挨拶をしてくれる 話しかけてくれる
関係性の持続	変わらない関わり 継続的な関わり 普遍的な関係の保証
新しい関係性	部活外における友達との深い関わり

3) 退部しやすい環境

このカテゴリーは，【退部の正式化】【退部を表明しやすい雰囲気】【影響力のある大人が聞き入れてくれる】の3個の概念から構成された。退部の決意や表明，実行の“しにくさ”からくる困難に対する支援として，＜退部しやすい環境＞とした。

4) 相談先の提供

このカテゴリーは，【相談に乗ると持ち掛けてくれる】【カウンセリングに繋げてくれる】の2個の概念から構成された。“本質を相談したいが誰に相談したらよいのか分からない”という表現から，＜相談先の提供＞とした。

5) 相談

このカテゴリーは，【話や意見を聞いてくれる】【理解してくれる】【共感してくれる】【見解を伝え返してくれる】の4個の概念から構成された。“話を聞いてもらうこと”や，それを前提とした支援を必要としていることから，＜相談＞とした。

6) 対応

このカテゴリーは，【支援を考慮してくれる】【的確な対応をしてくれる】【気持ちを汲み取ってくれる】の3個の概念から構成された。実際に今あるストレス状態に対して“何か対処をしてほしい”という思いがあることから，＜対応＞とした。

7) 次に進むための支援

このカテゴリーは，【所属感の提供】【次のステップに強く誘ってくれる】の2個の概念から構成された。次に進む準備や，進む先を決める前の環境調整を求めていることから，＜次に進むための支援＞とした。

8) 次の選択肢

このカテゴリーは、【戻れる雰囲気をつくってしてくれる】【スポーツをする場の提供】【新しく何かをする場の提供】【勉強に切りかえる提案をされる】の4個の概念から構成された。次に進む先を決める際の“選択肢”の多彩さから、＜次の選択肢＞とした。

9) 引き留める関わり

このカテゴリーは、【引き留めない関わりをしてくれる】【引き留める関わりをしてくれる】【個人の気持ちとして引き留めてくれる】【能力を必要とされ引き留められる】の4個の概念から構成された。ここでは、退部する際に起こりやすい、“退部したいという表明に対する周囲の反応”に注目し、＜引き留める関わり＞とした。

10) 退部の後押し

このカテゴリーは、【退部を勧められる】【退部への肯定的意見】の2個の概念から構成された。周囲の意見によって退部ができたことから、＜退部の後押し＞とした。

11) 退部の承認

このカテゴリーは、【意思を尊重してくれる】【退部を容認・許可してくれる】の2個の概念から構成された。“退部を認めてほしい”という思いがあることから、＜退部の承認＞とした。

12) 部活動の回避

このカテゴリーは、【理由を追求しない配慮】【部活動を遠ざけてくれる】【部活動と学校生活の切り離し】の3個の概念から構成された。ストレス場面となっている部活動から“距離をとる”という意味で、＜部活動の回避＞とした。

13) ピアサポート

このカテゴリーは，【退部仲間】【同じ境遇の者で分かち合う】の2個の概念から構成された。同じ“退部経験”をした者同士による相互的な支援として，＜ピアサポート＞とした。

14) コミュニケーション

このカテゴリーは，【挨拶をしてくれる】【話しかけてくれる】の2個の概念から構成された。退部以前においては自然に行われていた“基本的なコミュニケーション”が求められていたため，＜コミュニケーション＞とした。

15) 関係性の持続

このカテゴリーは，【変わらない関わり】【継続的な関わり】【普遍的な関係の保証】の3個の概念から構成された。“退部による関係の変化を恐れている”という表現から，その関係性が続くことが求められていたため，＜関係性の持続＞とした。

16) 新しい関係性

このカテゴリーは，【部活外における友達との深い関わり】の概念から構成された。退部することによって得られた肯定的な友人関係について，＜新しい関係性＞とした。

3. 4 結果図とストーリーライン

本研究では，M-GTAの分析方法に従い，生成した概念とカテゴリーの相互の関係に基づいて，分析結果を結果図（Figure 1 p.41）にまとめた。なお，結果図から，時系列に沿った退部プロセス3つと，時系列やプロセスを問わない常時の全般的な支援が見出された。

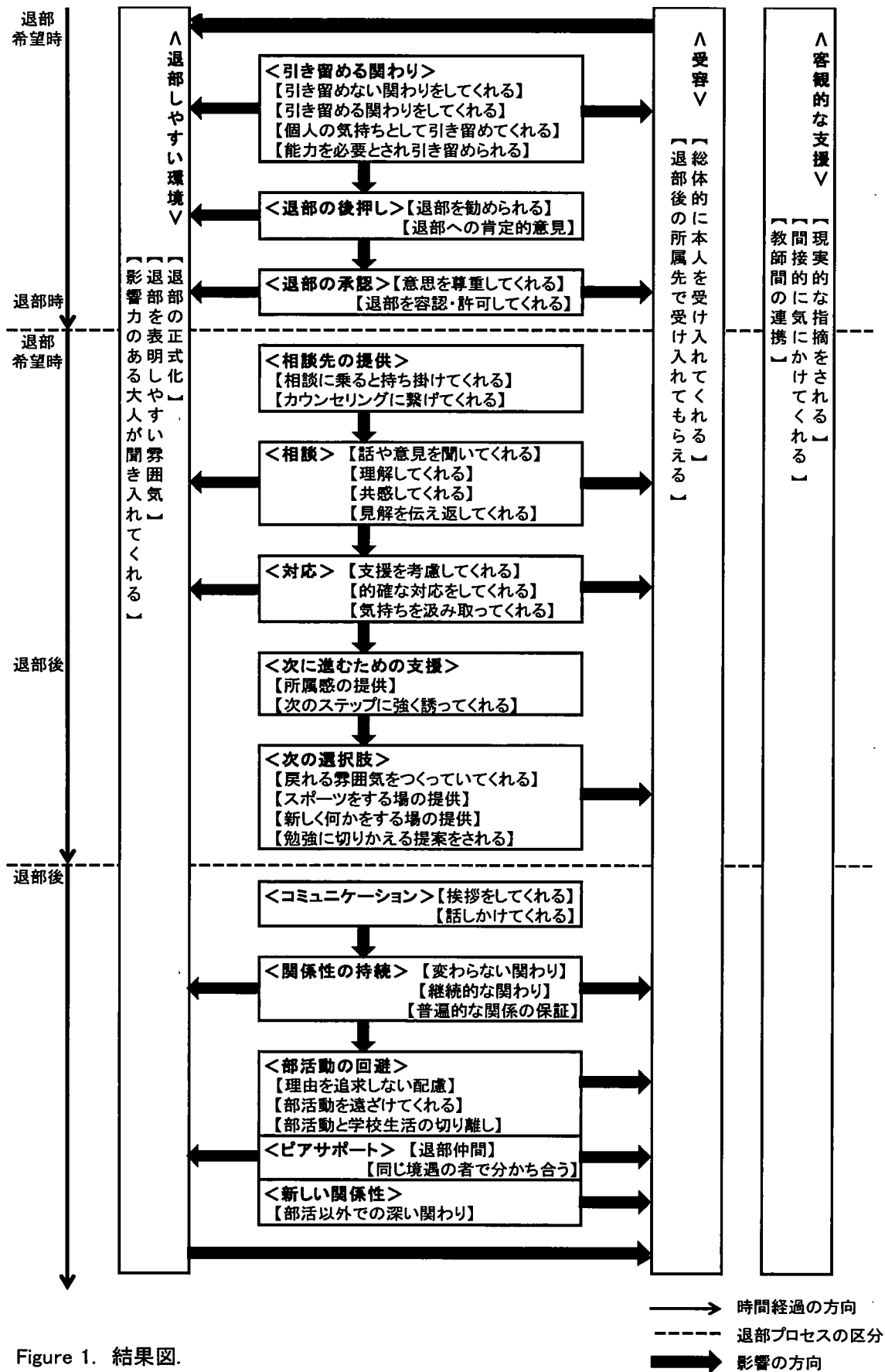


Figure 1. 結果図.

以下では，結果図のカテゴリーと概念を使って概要を文章化し，ストーリーラインとして説明する。1) 退部希望時から退部時，2) 退部希望時から退部後，3) 退部後，4) 常時の4つの退部プロセスの区分ごとに記述する。

1) 退部希望時から退部時

退部希望者は，退部希望時，【引き留める関わりをしてくれる】【個人の気持ちとして引き留めてくれる】【能力を必要とされ引き留められる】という支援者の＜引き留める関わり＞によって，＜受容＞されていることを感じる。一方，【引き留めない関わりをしてくれる】ことによって，【退部の正式化】と【退部を表明しやすい雰囲気】ができ，＜退部しやすい環境＞に繋がる。このような＜引き留める関わり＞は＜退部の後押し＞にもなる。【退部を勧められる】ことや【退部への肯定的意見】は，さらなる＜退部しやすい環境＞に繋がる。退部したいという【意見を尊重してくれる】関わりや【退部を容認・許可してくれる】という＜退部の承認＞は，【総体的に本人を受け入れてくれる】と＜受容＞されたことを実感する要因となる。＜退部の承認＞や＜受容＞が【退部を表明しやすい雰囲気】をつくることで＜退部しやすい環境＞に繋がり，退部へと展開する。

2) 退部希望時から退部後

退部希望時において，退部希望者は＜相談＞を求めている。しかし，退部希望者にとって，退部を希望していることは言い出しにくいことである。その支援として，【相談に乗ると持ち掛けてくれる】ことや【カウンセリングに繋げてくれる】といった＜相談先の提供＞を求めている。相談先では，まず【話や意見を聞いてくれる】こと，加えて，【理解してくれる】【共感してくれる】という支援によって，相談相手からの＜受容＞が感じられ

る。また，【見解を伝え返してくれる】ことや【影響力のある大人が聞き入れてくれる】ことにより【退部の正式化】がされ，＜退部しやすい環境＞への助長となる。＜相談＞によって得られた＜対応＞のひとつである【気持ちを汲み取ってくれる】ことは，【総体的に本人を受け入れてくれる】という＜受容＞に繋がる。さらに，退部を希望している状況や退部した状況に対して【支援を考慮してくれる】ことや【的確な対応をしてくれる】こと，中でも＜次に進むための支援＞として【所属感の提供】と【次のステップに強く誘ってくれる】ことを求めている。【戻れる雰囲気をつくってしてくれる】【スポーツをする場の提供】【新しく何かをする場の提供】【勉強に切りかえる提案をされる】ことは＜次の選択肢＞として退部者の希望に合わせて提示されることが理想である。退部者は，＜次の選択肢＞において，【退部後の所属先で受け入れてもらえる】ことで，＜受容＞されている“うれしさ”を感じる。

3) 退部後

退部後における部活関係者との関わりについて，【挨拶をしてくれる】【話しかけてくれる】という＜コミュニケーション＞は，退部者の持つ退部したことへの罪悪感を低減することに繋がり，＜関係性の持続＞へと展開する。【普遍的な関係の保証】によって【変わらない関わり】や【継続的な関わり】が得られることは，【総体的に本人を受け入れてくれる】と＜受容＞されていることを感じる。さらに，＜退部しやすい環境＞を助長する【退部を表明しやすい雰囲気】に対しても大きな影響を与える。部活外では，クラスの友達等に対して，退部の【理由を追求しない配慮】【部活動を遠ざけてくれる】【部活動と学校生活の切り離し】という＜部活動の回避＞への支援が求められる。これにより，【総体的に本人を受け入れて

くれる】＜受容＞が得られる。また，【退部仲間】の存在には，【同じ境遇の者で分かち合う】＜ピアサポート＞の役割があり，【退部の正式化】という＜退部しやすい環境＞や，【総体的に本人を受け入れてくれる】＜受容＞に繋がる。退部によって変化した友人関係によって，＜新しい関係性＞が生まれ，【部活外における友達との深い関わり】を持ち，そこでの＜受容＞される経験が，退部者に対する支援となる。

4) 常時

退部経験者は，運動部活動に入部した頃から退部後に渡って，継続的に【間接的に気にかけてくれる】ことや【教師間の連携】といった＜客観的な支援＞を求めている。さらに，【現実的な指摘をされる】ことは，自己と向き合うきっかけとなり退部を考えることや，退部した後悔に対する折り合いをつけることに繋がる。

また，退部のプロセスや時系列に関わらず，＜受容＞されることが＜退部しやすい環境＞に繋がり，周囲による＜退部しやすい環境＞によって退部者の＜受容＞されているという感覚が促進される。

第 4 章 総合考察

本研究の目的は，中学校・高校運動部活動退部経験者の語りから，退部において何を求めているのか，どのような支援を求めているのかを明らかにし，退部者・退部希望者への支援を検討することであった。結果図を検討し時系列でまとめたところ，退部者・退部希望者に対して有効であると考えられる支援が 11 点得られた。

4. 1 退部過程における一貫した支援

運動部活動の退部にあたり，退部希望時から退部後までのプロセスにおいて，時期や支援者を問わず，一貫して必要とされていた支援が明らかとなった。①受容的な関わり，②退部しやすい環境づくり，③間接的な見守りと客観的な指摘の 3 点である。

①受容的な関わりについて，部活動の競技レベルや立場を超えて，個として一人の人間として，退部者・退部希望者を受け入れるという関わりが必要であると考えられた。海老原（2006）は，楽しくもないのに運動部活動に参加することは，社会的承認を獲得するためであると述べている。そのことから，退部者・退部希望者の承認欲求にアプローチする必要性が窺えた。退部後に限定すると，新しい所属先や，元の部活動に復帰した場面において，新しいメンバーや戻ってきたメンバーを受け入れる姿勢を持つておくことが必要な支援の一つであると考えられた。

②退部しやすい環境づくりについて，退部のもつ否定的イメージが退部を表明しにくい雰囲気をつくり出していることが考えられた。退部を否定的に捉えず，退部の表明を言い出しやすい支援者の存在が必要であると考えられた。退部を正式に認める体制やその方法を明示しておくことで，退部に対する否定的なイメージの改善にも

繋がり，退部がしやすくなることが考えられた。特に，顧問や担任の教師など，入退部に関して影響力のある大人が支援者となることで，退部の心理的ストレスを解決したいという要求に応えることができるのではないかと推察された。

また，①受容的な関わりと②退部しやすい環境づくりは相互に関連しあっていると考えられた。受容されることが退部しやすい環境に繋がり，支援者による退部しやすい環境の調整によって退部者・退部希望者は受容されていることを認知できることが示唆された。稲地・千駄（1992）によると，運動部活動は，上下関係が強く集団の和が重視されている。また，勝利至上主義傾向が強く，娯楽性に乏しいという性質を有している。これは，競技力の向上と，スポーツの楽しさや喜びを味わう（文部科学省，1997）という運動部活動の本来の目的が矛盾していることを示している。つまり，競技力向上を目標とすることでスポーツの楽しさや喜びを味わうことが難しくなっている。運動部活動に対して，楽しさや喜び等，退部者・退部希望者が求めていることに耳を傾け，受容的な関わりをすることで，入退部を退部者・退部希望者が自由に決定できる環境をつくる必要があると考えられた。

③間接的な見守りと客観的な指摘については，退部者・退部希望者の部活動の参加の有無や，退部前後に関わらず，支援者は退部者・退部希望者を気にかけて，様子を見守っておくことに意味があると考えられた。さらに，学校現場などにおいては，顧問や担任など，一人の教師が一人の生徒を見るのではなく，何人かの教師で一人の生徒に関心に向けておくことが必要であると考えられた。さらに，部活動のことだけではなく，本人の将来を見据えて現実的に考えることができる立場の支援者からの指摘によって，退部者・退部希望者は自己と向き合うこと

ができる。その結果，自己実現へ向かう選択ができたり，退部した後悔に対する折り合いをつけたりすることに繋がると考えられた。

4. 2 退部希望時の支援

退部希望時における支援について，④相談的支援，⑤退部へ向かうための支援が必要とされていることが考えられた。

④相談的支援について，退部者・退部希望者は相談を求めているが，退部についての相談を打ち明けることには抵抗を感じていることが推察された。また，退部者・退部希望者が，特別な支援を求めていると表明している場合でも，話を聞いてほしい，理解してほしいという欲求を持っていることが推察された。そこで，学校生活において身近にいる支援者が，退部者・退部希望者の異変に気づき，相談を持ち掛けることが必要な支援であると考えられた。しかし，身近な存在には本当に相談したい内容を相談できない場合もあり，スクールカウンセラーをはじめとするカウンセリング機関の存在が必要であることが示された。中込（2004）は，アスリートの競技引退に対する支援として，心理的支援やカウンセリングなどの専門的介入の必要性を示している。本研究では，スクールカウンセラーやカウンセリング機関があまり使用されていない可能性が考えられたため，指導ではなく話を聞いたり相談に乗ったりする立場の教師の存在や周囲の人間の存在を支援者として周知させておくことが必要であると考えられた。そうして繋がった相談場面では，共感的に理解し，気持ちを汲み取ろうとする関わりが希求されていた。特に，クラスの友達，母親，部活の同級生等相談を受けやすい立場の支援者が相談を受けた際には，まず親身になって話を聞く姿勢が好まれると考えられた。部活関係者以外の支援者に対しては，退部者・退

部希望者のことを考えた客観的なアドバイスが望まれた。部活関係者に対しては，退部者・退部希望者は理解してもらうことによって，退部後にも部活関係者と良好な関係を持つことができると考えられた。つまり，退部後の良好な関係を維持するために，理解する姿勢で話を聞くことが必要であると考えられた。

⑤退部へ向かうための支援に関して，部活関係者には，退部を引き留める関わりと，退部を引き留めない関わりに加えて，退部を後押しする支援が求められていた。

まず，退部を引き留める関わりについて，退部することは認めてほしいが，しつこくない程度になれば，引き留められる関わりをポジティブに捉えることができると考えられた。特に，退部の意思を尊重したうえで，「退部してほしい」という支援者側の気持ちとして引き留める支援はむしろ好印象であると考えられた。しかし，競技力や立場等，退部者・退部希望者の能力が必要であるという理由で引き留められることに対しては，退部者・退部希望者によって印象の違いがあった。また，支援者が退部者・退部希望者を引き留めるために何かしらの配慮をした場合，退部した際の罪悪感に繋がること示された。

次に，退部を引き留めない関わりについて，退部希望者は早く退部したいという気持ちや手続きの簡略さを求めていることが示唆された。つまり，部活関係者は各退部者・退部希望者の希望や特性を考慮し，退部者・退部希望者の負担にならない関わりをする必要があると考えられた。

退部を後押しする支援については，退部を勧めることや，退部に関する肯定的な意見を支援者から伝えることで，退部者・退部希望者の持つ退部への否定的イメージが和らぎ，より自由な選択が可能になると考えられた。これは，渋谷他（2011）による「ストレス体験を肯定的

に意味づける過程」の段階に対応した支援であることが示唆された。退部者・退部希望者が退部を肯定的に捉えられるように支援することで、退部者・退部希望者の、退部による劣等感や挫折感等の心理的ストレスを緩和することに繋がると考えられた。また、退部したいという意思を尊重する支援によって、退部することに対する罪悪感の低減に繋がることが考えられた。

4. 3 退部時の支援

退部時における支援としては、⑥退部を容認する支援、⑦所属感を提供する支援が有効であると推察された。

⑥退部を容認する支援は、本格的に退部の手続きへと向かう際に必要であると考えられた。Klint & Weiss(1986)は、競技を辞めるための正当な理由として怪我を故意に引き起こすことを示している。退部を許してもらえない場合、退部者・退部希望者の心身の負担に繋がることが考えられた。結果から、支援者の態度が退部者・退部希望者に影響を及ぼすことが推察された。退部を希望する意思を尊重し、退部を容認する必要性が明らかになった。

⑦所属感を提供する支援については、退部を迷っている段階や、退部を決めているが退部届を出せていない段階に、所属感に対する支援が必要であると考えられた。岩宮(2009)によると、思春期におけるあるグループへの所属は、自分の居場所を確保することと同じであり、たとえ居心地がいいものでもなくとも、そこに所属していたいと感じるものである。退部はそのような所属感を揺るがす出来事である。そこで、所属感に関する支援として、部活動の代価となる居場所をつくる支援の必要性が示唆された。喜びや楽しみを味わえる、自由に所属できる、相談事ができる、次の選択肢を考えることができるという機能が、居場所の条件として求められると考察された。

4. 4 退部後の支援

退部後の支援として考えられたのは、⑧所属していた部活動を回避できる支援、⑨次のステップへ進むための支援の2点である。

⑧所属していた部活動を回避できる支援としては、まず、退部理由を追求しない配慮が必要であると考えられた。支援者は、理由を問うより、退部者・退部希望者に寄り添う形で退部理由の予想を伝える程度が望ましいと考えられた。しかし、退部者は部活動の話題から離れたいという希望を持っていることが示された。またこの支援にはクラスの友達が支援者として選ばれやすい。部活動のことや現実的なことを考える場ではなく、純粋に楽しく過ごせる場の提供をクラスの友達に求めていることが示唆された。そのため、支援者は、部活動の話を目発的にしないほうが賢明であると考えられた。学校としては、学校生活と部活動を切り離し、学校生活において部活動のことを気にかける必要がないように配慮することが望まれた。

⑨次のステップへ進むための支援について、退部者は今まで部活動に使っていた時間が空虚的になることが考えられる。そのため、新しく何かをやる場やスポーツをやる場の提供が支援になることが考えられた。退部者は、スポーツに対しての劣等感から、自ら進んでスポーツをやる場へ行くことに困難を抱えている。また、周囲との人間関係が崩れることに対する恐怖にも配慮する必要がある。そのため、新しい選択肢へ強く誘うという支援が必要であることが示唆された。勉強に切りかえる提案も支援になり得るが、部活を辞める代わりに勉強を頑張らなければならないという、条件付きの退部承認として捉えられる場合もあり、その後の生活でもその影響が負担となる可能性が考えられた。また、選択肢の一つとして、元の部活に復帰する選択肢を提供することも望まれた。

この支援によって、戻ってきてもいいという居場所が保証されている安心感が得られることや、再入部という、選択肢が広がる可能性が考えられた。新たな生活への移行をスムーズに実現するための支援として、競技を引退したアスリートや引退を控えたアスリートを対象に、オーストラリアの ACE やアメリカの CAPA、日本の J リーグキャリアサポートセンター等、一般化されたプログラムが実施されている（中村他，2015；豊田・中込，2000）。学校生活における運動部活動の退部に対しても、一般化された支援プログラムを考案されることが望まれる。

4. 5 退部後の関係性に特化した支援

退部後の関係性の変化に特化した支援として、⑩関係性の持続，⑪新しい関係性という支援が考察された。

⑩関係性の持続とは、退部者・退部希望者が抱く、退部による関係の変化への恐怖や不安に対して、退部しても関係性が変わらない安心感を与えることができる支援である。退部者・退部希望者は、部活関係者に対して、退部による罪悪感を持っている。そのため、支援者が部活関係者の場合、支援者から声をかけ、挨拶や会話をすることが望ましいと考えられた。退部後にも変わらない関わりをすることが退部者への大きな支援となると考えられた。さらに、退部後や学校卒業後にも継続的に関係を維持できる対象として、部活の同級生や先輩等が支援者として必要とされていることが考えられた。

⑪新しい関係性について、退部によって、今までの交友関係外の別の友達との仲がより深まったとことが明らかになった。特にクラスの友達が支援者として求められ、退部者・退部希望者の新しい居場所として必要とされていることが考えられた。藤原・堺（2009）は、「部活動の加入者は部の活動において他者とのコミュニケーションをとる機会を多くもつためコミュニケーション能力が高

まり，クラスにおいてもクラスメートと積極的な交流ができる」としていた。しかし，今回の結果からは，部活動の退部によって，クラス内に新しい交流の機会がつくられることが示唆された。また，他の退部経験者の存在は，同じ境遇として気持ちを共有し合い，心を軽くすることができるピアサポートの役割となることが考察された。

第 5 章 本研究の限界と今後の課題

本研究の結果から、同じ支援方法でも受け取り方が個によって異なったり、全く逆の支援を求めているいたり、
“この支援が良い”とは一概にはいえない支援が存在することが明らかとなった。それに対して、退部者と支援者のパーソナリティや関係性を考慮し、丁寧に支援方法を検討する必要性が考えられた。しかし、M-GTAは実践への還元を目的とした分析方法であり（木下，2003）、本研究において見出された結果は、実践場面で適用されることが重要である。そのため、個別対応に留めるのではなく、支援者として誰にでも実現が可能となる一般化された支援方法を明らかにしていく必要がある。

今回の研究協力者について、いくつかの偏りがみられたことが課題であった。8名中の半数である4名が退部理由に「人間関係」を上げていること、その競技の経験年数が少ない者が8名中7名であったこと、退部経験を肯定的に捉えている者が8名中6名であったことがあげられる。退部理由が「人間関係」であることに関して、本研究ではM-GTAの分析方法によって、支援方法を統合的に検討していったが、退部理由に焦点を当て、「人間関係」による退部経験者に絞った協力者の選定をすることも可能であった。そうすることで、誰とどのような関係上で起こったトラブルが原因で退部に至ったのか、どの時期に、誰から、どのような支援が必要であるのか等、退部に至るまでの経験から必要とされる支援等を考慮した詳細な分析ができたのではないかと考えられる。他の様々な退部理由にもそれぞれ焦点を当て、退部理由による支援方法の差異や、退部前の状況による支援の流れの違いから支援方法を考えることが必要であると考えられる。経験年数の少なさに関しては、その競技を長く継続してきた者との比較ができるかもしれない。退部経験を

肯定的に捉えている者と，否定的に捉えている者でも何らかの差異が生じるかもしれない。また，退部を希望していたが，実際は退部に至らず部活動を継続していった者もいる。その場合，退部経験者と退部を希望していたが継続した者とを分けた分析ができ，その結果を比較することも可能であったのではないかと考えられる。このように協力者を絞った調査であれば，詳細な群分けによる比較検討ができる可能性もある。たとえば男女差，競技の違い，競技レベルの違い等，そのパターンは多様に考えられる。それによって，より一層的確な支援内容や求められる支援者の特性を明らかにすることができるのではないかと推察される。

さらに，今回は退部支援について考察し，周囲からのサポートとしてどのような支援が必要かを検討した。今後は，退部者視点となり，退部者自身が退部の意志を表明し，求める支援を受けることができた先に，退部者自身が退部にどのように向き合うとよいのかを検討する必要があると考えられる。

引用文献

- 青木 邦男 (1989). 高校運動部員の部活動継続と退部に影響する要因 体育学研究, 34 (1), 89-100.
- 青木 邦男 (2001). 青少年の運動部活動からのドロップアウト——その予防・対策としての有能感・適応感に焦点づけて—— (特集 競技者のトラブルとその予防・対策) 体育の科学, 51 (5), 342-348.
- 青木 邦男・松本 耕二 (1997). 高校運動部員の部活動適応感に関連する心理社会的要因 体育学研究, 42, 215-232.
- Danish, S.J. & Petitpas, A.J. & Hale, B.D. (1995). Psychological interventions : A life development model. In: Murphy, S. M. (Eds.) Sport Psychology Interventions. Human Kinetics, 19-38
- 海老原 修 (2006). トップアスリートと燃え尽き症候群——スポーツ・ドロップアウトとスポーツ・バーンアウト—— スポーツ精神医学, 3, 5-10.
- 藤原 誠・堺 賢治 (2009). 中学校の運動部活動に関する研究 愛媛大学教育学部保健体育紀要, 6, 25-34.
- 稲地 裕昭・千駄 忠至 (1992). 中学生の運動部活動における退部に関する研究——退部因子の抽出と退部予測尺度の作成—— 体育学研究, 37 (1), 55-68.
- 岩宮 恵子 (2009). フッターの子の思春期——心理療法の現場から—— 岩波書店
- 木下 康仁 (2007). 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) の分析技法 富山大学看護学会誌, 6 (2), 1-10
- 木下 康仁 (2003). グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い 弘文堂

- Klint, K.A. & Weiss, M.R. (1986). Dropping in and dropping out participation motives of current and former youth gymnasts Can J Appli Sport Sci, 11(2), 106-114.
- 文部科学省(1997). 運動部活動のあり方に関する調査研究報告——中学生・高校生のスポーツ活動に関する調査研究協力者会議 1997年12月発表—— 文部科学省 Homepage <http://www.mext.go.jp/> (2016年4月)
- 村尾 陸男 (1997). スポーツ精神——スポーツとスポーツ精神について考え, われわれの精神について考える本—— 中央アート出版社
- 中込 四郎 (2004). アスリートの心理臨床: スポーツカウンセリング 道和書院
- 中込 四郎・伊藤 豊彦・山本 裕二 (編著) (2012). よくわかるスポーツ心理学 ミネルヴァ書房
- 中村 敏雄・高橋 健夫・寒川 恒夫・友添 秀則 (2015). 21世紀スポーツ大事典 大修館書店
- 戈木クレイビル 滋子 (2014). グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いたデータ収集法 新曜社
- 渋谷 崇行・西田 保・佐々木 万丈 (2011). 高校運動部活動で不適応を示した中途退部者のストレス体験 桜門体育学研究, 45(2), 1-17.
- 玉江 和義・谷口 勇一・吉田 毅 (1998). 福岡県内某公立高等学校1年生における精神的健康と疲労に関する探索的研究——中学校からの運動部活動歴との関連性の検討—— 健康科学, 20, 93-98.
- 豊田 則成・中込 四郎 (2000). 競技引退に伴って体験されるアスリートのアイデンティティ再体制化の検討 体育学研究, 45(3), 315-332.

上野 耕平・中込 四郎（1998）. 運動部活動への参加による生徒のライフスキル獲得に関する研究 体育学研究, 43, 33-42.

やまだ ようこ（2007）. 質的心理学の方法——語りをきく—— 新曜社

謝 辞

本研究を進めるにあたり，調査にご協力くださった 8 名の皆様には，大変ご多忙の中，貴重なお時間を割いて快く調査を引き受け，インタビューにご協力いただきました。真摯に向き合い，本研究を応援していただき，本当にありがとうございました。

インタビューには至りませんでした，研究協力を求めた際に調査をご承諾くださった，退部経験者・退部希望経験者の皆様にも，大変感謝しております。

研究協力を求める際，資料の配布をご承諾くださった，神戸親和女子大学の大島先生，知人に協力を募り，資料を配布してくださった，兵庫教育大学の学生の皆様には，感謝の気持ちでいっぱいです。深く御礼申し上げます。

指導教員の辻河昌登先生，主任指導教員の富永良喜先生，ゼミ指導教員の鈴木菜実子先生，査読をしていただいた市井雅哉先生をはじめとする，臨床心理学コースの先生方には，よりよい研究となるようご意見やご助言をいただきました。ご多忙の中，適切なご指導をいただき，様々なご支援をくださり，心より感謝申し上げます。

辻河ゼミの皆様には，研究，執筆にあたり様々なアドバイスをいただきました。大変感謝しております。

最後に，いつも支えとなり，応援してくださった家族と臨床心理学コースの皆様に感謝申し上げます。臨床心理学コースの皆様とは，修士論文作成にあたり，ご思案，ご助言をいただきながら，共に取り組めたことを心から有難く思います。

多くの方々に支えられて本論文を作成することができました。本当にありがとうございました。

2016 年 12 月 吉日

菅田有希子

資料

- ① 研究調査依頼書・研究概要
- ② 研究協力のお願ひ
- ③ インフォームドコンセント・倫理的配慮
- ④ 同意書の署名およびフェイスシート
- ⑤ 研究協力承諾書
- ⑥ 倫理審査申請書
- ⑦ 倫理委員会審査結果通知書
- ⑧ 分析ワークシート

① 研究調査依頼書・研究概要

平成 28 年 月 日

様

運動部活動の退部支援に関する調査へのご協力をお願い

拝啓 の候、 様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。私は、兵庫教育大学大学院修士課程に在籍しております菅田有希子と申します。

この度、修士論文「運動部活動退部者への支援に関する研究－経験者に対する質的研究に基づく分析－」に取り組んでおります。本研究では中学校、高校時代に運動部活動を退部した経験または退部を希望した経験を持つ大学生を対象に、部活動退部において求められる支援について調査を実施したくお願い申し上げます。この調査によって、運動部活動退部者の求めている支援を明らかにすることができ、教育・臨床現場において運動部活動退部者に対する支援可能性と支援の在り方を検討するための新たな知見となることが期待されます。つきましては、下記の内容について、研究の趣旨をご理解のうえ研究協力をご検討頂きたくご依頼申し上げます。

研究に関するご質問やご意見、ご要望等がございましたら下記連絡先までご連絡下さい。お忙しいところ大変恐縮ではございますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 人間発達教育専攻
臨床心理学コース 修士課程 2 年 菅田有希子

〒673-1415 兵庫県加東市下久米 942 - 1

TEL :

E-mail :

指導教員 兵庫教育大学 辻河昌登

E-mail :

記

＜研究の概要＞ 運動部活動の退部は、さまざまな悩みを伴う出来事です。本研究では、中学校・高校において運動部活動を退部した生徒、退部を希望する生徒に対する支援について注目しています。退部後の生徒への適切な関わりをするために、退部経験者の視点から、当事者が退部後に求めるもの、支援等の意見を明らかにしたいと考えています。

＜目的・意義＞ 中学校・高校の運動部活動での退部経験について、退部希望時から現在までの過程にそってニーズを聞きとり、退部者・退部希望者への支援を検討することを目的とします。本研究が、運動部活動の退部に対する認知の変容、退部者への関心の高まりに伴う支援可能性の増進、支援の在り方を検討するための一助となることが考えられます。

＜方法＞ 中学校・高校時代に運動部活動に所属し退部した経験を持つ大学生、または退部を希望したことのある大学生を対象とし、1回50分程度の面接でインタビューを行います。主なインタビュー内容は、「退部経験について」「退部希望時から現在までの過程」「退部において求めていたもの」「退部希望時から現在までに求めていた支援」「退部希望時から現在までで実際に受けた支援とその感想」「退部することができた理由」「退部希望時の援助要請について」等です。

＜プライバシーおよび個人情報の取り扱い＞ 研究への参加協力は自由意思によるものです。この依頼を拒否することによってご迷惑をおかけすることは一切ございません。協力の可否はどうぞ遠慮なくお知らせください。内容データは研究目的以外では使用しません。対象者が特定されないよう十分な配慮を行います。

＜研究協力に伴う影響の可能性とアフターケア＞ 運動部活動の退部経験について語ることで、気持ちが整理されたり癒されたりするだけでなく、気持ちが沈む可能性も考えられます。面接後に何らかの身体的・心理的不具合が生じた際は、呼吸法・動作法等のコンテイナーや事後カウンセリングの利用も可能です。

＜研究結果の公表方法＞ 本研究は、兵庫教育大学大学院の学位論文として公表予定です。公表の際にも個人情報保護への配慮を十分にいたします。記載内容が知りたい場合は確認が可能ですのでご連絡ください。

＜手続き＞

(1) 貴学の大学生に「研究協力依頼」「質問紙」の資料を配布していただき、「質問紙」を回収した後、同封した返信用封筒にて郵送をお願いいたします。

(2) 「研究協力依頼」は、研究の説明とインタビュー調査の協力を依頼するものです。「質問紙」は、研究協力の同意と、中学校・高校時代における運動部活動の退部または退部希望経験の有無、簡単な質問に対する回答を求めるものです。所要時間は10分程度です。

(3) 本人の「質問紙」への回答によって研究の同意が得られたと判断させていただきます。 以上

② 研究協力をお願い

中学校・高校運動部活動の退部支援に関する調査へのご協力のお願い

兵庫教育大学大学院 菅田有希子

前略

現在、修士論文「運動部活動退部者への支援に関する研究―経験者に対する質的研究に基づく分析―」というテーマで研究をしています。本研究では中学校・高校時代に所属していた運動部活動において、退部経験または退部を希望した経験を持つ大学生を対象に、退部を希望したときや退部後に求める支援についてインタビューによる調査を行わせていただきたいと考えております。

下記の《研究協力依頼》の内容について、本研究の趣旨をご理解いただき、ご協力の可否についてご検討いただきたくお願い申し上げます。研究に協力してもよいとお考えの、

【中学校・高校時代に所属していた運動部活動において退部経験、または退部を希望したことがある方】
は、付属の〈質問紙〉に氏名と連絡先をご記入の上、回答をお願いいたします。質問紙の内容を考慮したうえで、面接のご協力をお願いする方に関しましては、おってご連絡させていただきますのでご了承ください。

なお、面接につきましては、退部経験を語るという煩瑣なお願いすることとなりますので、ご協力いただいた方には、わずかですが謝礼をさせていただきたいと思っております。

研究に関するご質問やご意見、ご要望等がございましたら下記連絡先までご連絡下さい。お忙しいところ大変恐縮ではございますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

早々

兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 人間発達教育専攻

臨床心理学コース 修士課程 2 年 菅田有希子

〒673-1415 兵庫県加東市下久米 942 - 1

TEL :

E-mail :

指導教員 兵庫教育大学 辻河昌登

E-mail :

《研究協力依頼》

① 研究の概要

運動部活動の退部は、さまざまな悩みを伴う出来事です。本研究では、中学校・高校において運動部活動を退部した生徒、退部を希望する生徒に対する支援について注目しています。退部後の生徒への適切な関わりをするために、退部経験者の視点から、当事者が退部後に求めるもの、支援等の意見を明らかにしたいと考えています。

② 目的

中学校・高校の運動部活動での退部経験について、退部希望時から現在までの過程にそってニーズを聞きとり、退部者・退部希望者への支援を検討することを目的とします。

③ 方法

中学校・高校時代に運動部活動に所属し退部した経験を持つ大学生、または退部を希望したことのある大学生を対象とし、1回50分程度の面接でインタビューを行います。

主なインタビュー内容は、「退部経験について」「退部希望時から現在までの過程」「退部において求めていたもの」「退部希望時から現在までに求めていた支援」「退部希望時から現在までで実際に受けた支援とその感想」「退部することができた理由」「退部希望時の援助要請について」等です。

④ プライバシーおよび個人情報の取り扱い

研究への参加協力は自由意思によって行っていただきます。また、協力を承諾した場合でも、いつでも承諾を撤回することができます。この依頼を拒否することによってご迷惑をおかけすることは一切ございません。協力の可否はどうぞご遠慮なくお知らせください。

インタビューについて、答えたくない内容には回答を拒否することができます。面接の途中で辞めたいと感じた場合にはいつでも辞めることができます。なお、面接の記録は録音させていただきます。内容データは研究目的以外では使用しません。また、対象者が特定されないように十分な配慮を行います。

⑤ 研究協力に伴う影響の可能性とアフターケア

運動部活動の退部経験について語ることで、気持ちが整理されたり癒されたりするだけでなく、気持ちが沈む可能性も考えられます。面接後に何らかの身体的・心理的不具合が生じた際は、呼吸法・動作法等のコンテイナーや事後カウンセリングの利用も可能ですのでご連絡ください。

⑥ 研究結果の公表方法

本研究は、兵庫教育大学大学院の学位論文として公表予定です。公表の際にも上記同様に個人情報保護への配慮を十分にいたします。また、事前に記載内容について知りたい場合は確認が可能ですのでその旨をお伝えください。

＜質問紙＞

MAIL :

- これで質問はおわりです。ありがとうございました。

承 諾 書

「運動部活動退部者への支援に関する研究－経験者に対する質的研究に基づく分析－」
にかかる調査について、説明者より研究内容について書面および口頭により説明を受け、
内容を理解した上で調査に協力することを承諾しました。

平成 年 月 日

氏名：_____

「運動部活動退部者への支援に関する研究－経験者に対する質的研究に基づく分析－」
の研究にかかる調査について、書面および口頭により平成 年 月 日に説明を行
い、上記の通り承諾を得ました。

説明者：兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 人間発達教育専攻
臨床心理学コース 修士課程 2 年

氏 名：_____

⑥ 倫理審査申請書

別記第1号様式（第9条第1項関係）

ヒトを対象とする研究に関する倫理審査申請書

年 月 日提出

兵庫教育大学長 殿

申請者（実施責任者）

所 属 人間発達教育専攻

職 名 准教授

氏 名 辻河昌登

印

研究題目 運動部活動退部者への支援に関する研究—経験者に対する質的研究に基づく分析—						
研究代表者	所 属	人間発達教育専攻	職 名	准教授	氏 名	辻河昌登
分担研究者	所属等	学校教育研究科	職名等	修士課程2年	氏 名	菅田有希子
	所属等		職名等		氏 名	
	所属等		職名等		氏 名	

研究計画の概要

文部科学省（1997）によると、運動部活動は生涯にわたるスポーツとの関わりと健康の増進、生徒の人間形成を運動部活動の基本的意義としている。先行研究では、運動部活動の参加によるポジティブな効果が報告されている（藤原・堺，2009；上野・中込，1998；玉江・谷口・吉田，1998）。

一方、所属する運動部活動に対して不適応を抱くことも多数報告されており（青木・松本，1997；渋谷・西田・佐々木，2011；中込・伊藤・山本，2012；中村・高橋・寒川・友添，2015），不適応が高まると競技継続の迷いや退部を訴えるようになる（中村他，2015）。

従来の研究では、退部の要因を明らかにすることが不適応や退部の予防につながると考えられ、予防の必要性が示唆されてきた（青木，1989；青木，2001；稲地・千駄，1992；中村他，2015）。しかしここに当事者の意見は含まれていないことが考えられる。

渋谷他（2011）は、当事者の主観的視点化から退部前のストレス体験を明らかにしたが、退部後については十分な結果が得られたとは言い切れない。また、中村他（2015）は退部後の支援について考える必要を指摘しているが、退部後の支援に焦点をあてた研究は見当たらない。

以上のことから、退部後の経験、心理的困難や葛藤をふまえ、退部において当事者は何を求めているのか、どのような支援を求めているのかを明らかにする必要があると考えられる。したがって本研究では、運動部活動退部経験者・退部希望経験者の語りから、退部希望時から現在までの過程にそってニーズを聞きとり、退部者・退部希望者への支援を検討することを目的とする。

本研究では退部経験者・退部希望経験者の語りを研究対象とするため質的研究法を用いる。

運動部活動の退部経験・退部希望経験のある大学生を対象とする。協力の承諾が得られた者に対して、半構造化インタビューを実施する。具体的なインタビュー内容は、「退部経験について」「退部希望時から現在までの過程」「退部において求めているもの」「退部希望時から現在までに求めている支援」「退部希望時から現在までで実際に受けた支援とその感想」「退部することができた理由」「退部希望時の援助要請について」等とする。

分析方法はグラウンデッド・セオリー・アプローチを用いる。概念化、カテゴリー化、モデルの生成の手順で行う。

大学生に依頼書、同意書および質問紙を配布し、中学校・高校時代に運動部活動の退部経験の有無、退部希望経験の有無について回答を求め、インタビュー調査の協力を依頼する。

インタビュー調査の協力者には謝礼をする。

インタビューの質問項目は以下のとおりである。

「退部経験について」「退部希望時から現在までの過程」「退部において求めているもの」「退部希望時から現在までに求めている支援」「退部希望時から現在までで実際に受けた支援とその感想」「退部すること

⑥ 倫理審査申請書

ができた理由」「退部希望時の援助要請について」など
器具、装置等の使用はしない。
兵庫教育大学大学院の学位論文として公表予定。

研究の目的、必要性及び期待される成果

本研究の目的は、運動部活動退部経験者・退部希望経験者の語りから、退部希望時から現在までの過程にそってニーズを聞きとり、退部者・退部希望者への支援を検討することである。

当時者である退部経験者・退部希望経験者のニーズに焦点を当てることによって、支援者は退部者・退部希望者に対して適切な対応をすることが可能になる。

本研究が、運動部活動の退部に対する認知の変容、退部者・退部希望者への関心の高まりに伴う支援可能性の増進、支援の在り方を検討するための一助となることが期待される。

研究の対象、実施場所及び実施期間

本研究の対象者は、中学校・高校時代に運動部活動に所属し、退部した経験または退部を希望した経験を持つ大学生である。

渋谷他（2011）は、大学生は退部後にある程度の時間が経っていることによって退部経験に関する自分の考えや気持ちを整理して語ることができると述べている。退部後あまり時間が経過していない時期に退部経験について語ってもらうことは研究協力者に不快感情を生じさせる可能性があるため（渋谷他，2011），大学生を対象とした。

対象者の選定方法として予備調査を行う。大学の代表者に、「①調査依頼」で調査の協力を依頼し、学生に「②予備調査資料」を配布してもらう。「②予備調査資料」は、「研究協力のお願い」「研究協力依頼（インフォームドコンセント）」「同意書と簡単な質問紙」で構成されており、インタビューのお願いをするものである。返答の中から、同意が得られ、本研究の対象として該当する者を研究協力者として20～30名選定する。

インタビューの実施場所は研究協力者と相談のうえ実施可能な場所を選択する。

インタビュー協力者には、研究に趣旨とインフォームドコンセントの説明を行ったうえで「③承諾書」に記入してもらい、1回50分程度の半構造化インタビューを実施する。

研究における倫理的配慮について

(1) 対象者等の人権への配慮

インタビュー調査の際に対象者と連絡をとる必要があるため、匿名化しない。

録音・内容データは研究目的以外では使用しない。データはカギをつけて管理し、研究終了後に消去する。対象者が特定されないように十分な配慮を行う。

(2) 対象者等に不利益及び危険性が生じないための配慮

運動部活動の退部経験について語ってもらうため、気持ちが沈む等の負担が生じる可能性がある。

倫理上の問題が生じないように最大限の配慮を行う。研究協力は自由意志で、回答の拒否や途中で辞めることが可能である旨を伝える。インタビュー後に何らかの身体的・心理的不具合が生じた際は、呼吸法・動作法や事後カウンセリングが可能である旨を事前に伝えておく。

(3) 対象者に理解を求め、同意を得る方法

対象者の所属する大学の代表者に「調査依頼」を以て研究協力の依頼をする。対象者本人に「研究協力のお願い」「インフォームドコンセント」「同意書と簡単な質問紙」で構成される資料を配布する。

(4) その他

依頼資料に研究代表者および分担研究者の連絡先を記載する。

受 付 年 月 日 ※	年 月 日	受 付 番 号 ※	第 号
-------------	-------	-----------	-----

注意事項 ※欄は担当課が記載

⑦ 倫理委員会審査結果通知書

別記第3号様式（第9条第8項関係）

審 査 結 果 通 知 書

第 11 号
平成28年 7月 5日

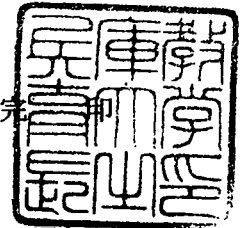
申請者（実施責任者）

大学院学校教育研究科

准教授 辻河 昌登 殿

兵庫教育大学長

福 田 光 孝



さきに申請のあった研究について審査したところ、下記のとおりであったので通知します。

記

受 付 番 号	11					
研 究 題 目	運動部活動退部者への支援に関する研究 －経験者に対する質的研究に基づく分析－					
研究代表者	所 属	大学院学校教育研究科	職 名	准教授	氏 名	辻河昌登
判 定	承認					
判 定 理 由 又は勧告等	<p>申請のありました研究計画について、ヒトを対象とする研究に関する倫理審査委員会に諮問しました。</p> <p>その結果、委員長から本研究計画は、「科学的正当性」、「倫理的妥当性」があると審査結果が得られ実施について問題はない旨、7月4日付け答申書により報告を受けました。</p> <p>よって、本研究計画の実施については問題はないと判断しましたので、研究の実施を承認します。</p>					
備 考						

⑧ 分析ワークシート

概念名①	総体的に本人を受け入れてくれる
定義	競技や立場にこだわらずに、総体として本人を見ていてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいつは競技レベルがへたくそだからああやとか、あいつは休むからああやとか、そういうの抜きにして僕を見ててくれてた感じがあったんで、先輩は好きでした、辞めてからも。(B74) ・ <競技じゃなくって、自分を見ててくれてる、理解してくれてるっていう感じですかね>先輩方陸上も好きでプラスα僕に対しても構ってるみたいな、陸上ほんまに好きな人は、たぶんなんですけど陸上に対してやる気ないやつっていうのは腹立つと思うんですけど、でも、腹立たずにちゃんと僕と向き合ってくれてる感じがうれしかったですね。(B76) 顧問は、ピークがあるけど、同じように谷もある感じかな、先輩はずーっと一直線で感じ。情熱も一人の生徒に対しての情熱のかけ方とか (B76) <顧問の先生にも一直線であってほしかった>「そうですね、ずーっと見てるでって (B76) ・ 入部してまあゆうても中1やから、ちやほやされるんですよ (B4) ・ 後輩も入ってくるじゃないですか、そしたらそういうちやほやとかっていうのはなくなる、で、自分もちよっと上の学年として後輩を引っ張っていかなあかんのに明らかに後輩のほうが早い。ってなったときに、自分の立ち位置っていうのを考えまして、後輩がやっぱり、そんなことないっすよって言いつつも、露骨に俺よりもお前しょぼいやんけ一的なんが、いたるところで出てくる、それでもBさんはいい人やかつらって言われたりもするけど、それでもやっぱりそういうの感じるし、で今まで優しかった高3高2の人も卒業していくし、お前中2やねんからもうちょっと周りを引っ張れるようなことせえって、きつく当たるじゃないけどそんなときにはそう思えたんですかね。(B4) ・ 遅かったはおそかったですよ。ある記録の大会で、歴史的に一番遅かったですよ、だから陸上に対して劣等感はありましたね (B84) ・ 気にしてないんかなーっていう感じ。(C69) ・ 顧問がそれでもいいよっていつてくれたうれしさよりも、他の部員が、私が戻ってくることを受け入れてくれたりとか、同じクラスだった部長が、ずーっと辞めた後も声かけてきてくれて、戻るきっかけも部長が、私が何度も断っても、それでも声かけてくれたって、そういうところはもう、あるうれしさだったりとか、すごく部員に対しても厳しい部長だったのに、週3しか出れない私を、すごく笑顔で受け入れてくれたっていうのが一番うれしかったです。(E37) ・ 気にかけてくれてたんじゃないかなとは思ってます。(F100) ・ 練習がきつすぎてとか、掛け持ちしてるわけじゃなくて、なんかちょっとその当時の中学校、中学生って敏感じゃないですか、思春期は言って、で、だからその敏感な言いづらいじゃないですか、例えば野球部やったら野球の練習がつらくて辞めて、楽な部活に入ったとか、言いづらいじゃないですか、だから言い出しづらいんじゃないかなと。(G109)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退部後 ・ 先輩、顧問、部活の同級生 ・ 受容

⑧ 分析ワークシート

概念名②	退部後の所属先で受け入れてもらえる
定義	退部後の所属先にて、受け入れる体制でいてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・他の部員が、私が戻ってくることを受け入れてくれたりとか、同じクラスだった部長が、ずーっと辞めた後も声かけてきてくれて、戻るきっかけも部長が、私が何度も断っても、それでも声かけてくれたって、そういうところはもう、あるうれしさだったりとか、すごく部員に対しても厳しい部長だったのに、週3しか出れない私を、すごく笑顔で受け入れてくれたっていうのが一番うれしかったです。(E37) ・受け入れてくれてる感を感じて、試合出すのもいいっていう感じは、てたんですけど、私が勉強できないってこととか予備校通ってるっていうのは前々から知ってるので、そういうのもあったから受け入れてくれるっていうのはありました (E60) ・他のメンバーには特に相談はしなかったですね、あんまり小学校から久しい友達っていうのがあんまりいなかったんで、それよりもテニス部の方にはいたんですよ。小学校から仲いい子らが何人もいて、その人らと関わりたかった (G47、48) ・空手辞めて、卓球のほうにも切りは着けて、夏休み入る直前に男子テニス部の先生に話に行って、入れてくださいってって感じですね。(G32) ・友達がいたんでその友達が言ってくれたっていうのもあるんですかね。やりたいっていうか興味持ってる人がいるんですけどみたいな感じで聞いてくれたんじゃないかなと思ってる (G53、54) ・まあ、来なよみたいな。(G61) ・受け入れてもらえてるんだなって。(G62) ・すんなり入れたのが良かったですね (G83) ・(先輩も友達も先生も受け入れてくれてる感じ) がやりやすかったですね、一番 (G86) ・入ってくるんかみたいな、そんなに嫌がるような感じではなかったですね。(G91) ・、戻ったときに、おいやっぱ戻ってきたんかい！みたいな、戻ってきたんかい！みたいなんは、嬉しかったかもしれん。(H93) ・顧問がそれでもいいよっていつてくれたうれしさよりも、他の部員が、私が戻ってくることを受け入れてくれたりとか、同じクラスだった部長が、ずーっと辞めた後も声かけてきてくれて、戻るきっかけも部長が、私が何度も断っても、それでも声かけてくれたって、そういうところはもう、あるうれしさだったりとか、すごく部員に対しても厳しい部長だったのに、週3しか出れない私を、すごく笑顔で受け入れてくれたっていうのが一番うれしかったです。(E37) ・結局戻ってくるんかい！みたいな感じやったからそっからまた関係は、前と同じように戻った (H94)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部後 ・部活の同級生、クラスの友達、新しい顧問、顧問 ・所属感

⑧ 分析ワークシート

概念名③	現実的な指摘をされる
定義	部活動や競技から離れることに折り合いをつけられるように、客観的な現実を突きつけられること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・ あんた勉強も両立できひんし、それは自分も知ってたんですけど、そんなんを言われて (A89) ・ 部活と勉強はまたちゃうからなと思うんですけど、確かに勉強もせなあかんし。 (A95) ・ 勉強で両方出来とったら親もたぶんなんも言っていない。 (A96) ・ 退部して後悔はありましたね。今ではもうないんですけど、引きずってました。大学の1回生2回生くらいまでは、あーやめんかったらよかったなっていうのはありました。でも大学で、OB でたまたまハンドボールクラブっていうのがあってそれに一回見学に行ったら体験してもらってから、そこなんか代表者みたいな人ばかりで全国大会出る人みたいな、私1ヵ月しかやって無かったんで、余計あーなんかそこで区切りがついたというか、あー私は別に、なんかねー、吹っ切れてそこから全然、もういい、大丈夫 (C120) ・ 親に、成績見せてるときに、どっちかにしろって。 (G29) ・ まあいずれ言われるやろなっていうのはあったんで。 (G30) ・ 自分もなんか疲れてて、宿題もなんかできないみたいな感じだったんですよ。だからまあいずれ決着はつけなあかんとは思ってて、それで思ってた時に親に言われたんで、まあこの際、っていうかちょうどいい時間に、いい頃合いだから辞めようっていう気になって。 (G31) ・ 勉強続けるなら、ひとつに絞ったほうがいいんじゃないって。そんなに大したことは言ってこなかったなって。 (G80) ・ 自分で考えるきっかけになったんでよかったなと思います。 (G81) ・ 大きいと思いますね、結局言い出せなかったっていう部分はあるんで。 (G100)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退部希望時、退部後 ・ 自分で行ったりやったり体験して現実を知る ・ 親など人に言われて現実を知る ・ 後悔していたが折り合いがつけられた ・ 考えるきっかけになった ・ 退部したこと、後悔や劣等感、自己への否定的なレッテル…挫折体験を肯定的に受け止められるきっかけ？

⑧ 分析ワークシート

概念名④	間接的に気にかけてくれる
定義	知らないところで、間接的に気にかけていてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・最近練習に来てないけどどうやとか、たぶんまあ顧問の先生とか同期とか、先輩方とかが様子を見とってくれて、そつとしといた方がいいんじゃないかっていう感じだったんじゃないですかね。(F38) ・結構心配はしてくれてましたね。(F39)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時、退部後 ・顧問、部活の同級生、先輩

⑧ 分析ワークシート

概念名⑤	教師間の連携
定義	教師同士が連携して本人のことを考えてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<p>・顧問の先生が剣道の体育の先生だったんですけど、1年の時に担任もってもらった人が別の体育の先生だったんですけど、たぶんそこが連携してくれてて、もともと、もともと運動が苦手なタイプで見とってくれみたいな連絡がたぶん言ってたと思うんですね最初から顧問のほうに、それがちょっと楽やったんかなっていう気はします。もともと入部届だすまでは、剣道部の顧問の先生とはかかわり全くなかったんで、そういう連絡はあったと思います。(F99)</p> <p>・違うチーム、クラブチームでサッカーしようとしてて、でクラブチームの先生が、A市って市立高校3校しかなくて、先生ってその中でぐるぐる回るんかな、だから情報がたぶん回ったんかなその先生に…(中略)…そんで伝わったんかな、あいつ違うとこでサッカーやっとなぞみたいな (H66)</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・入部後、退部希望時、退部後 ・顧問と担任 ・監督と顧問

⑧ 分析ワークシート

概念名⑥	退部の正式化
定義	前例があるなど、学校として退部が公に認められていること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に、高2まで続けとって、高2で一回辞めて、高3の秋に復帰した、言うたらあと3か月4か月しかないじゃないですか、っていう人はいて、で高2の終わりから入ってくる人もいて、だからどうなるのかなーっていうのは思っていましたね。(B40) うーんなんか先例があったから、なんか戻るのかなーみたいな感じで(B42) 前例みたいな。だから先輩が、遅くから入るみたいなのがあったから、漠然となんか考えてましたね。(B43) ・陸上と、離れられんねやって公式的にオフィシャルに認められたっていうそんな感じですね。(B44) ・やめることに対して肯定的な意見をくれる人ってありがたかったですね。(B60) ・簡単。中学んときって続けないとっていうなんか周りもそういう感じやったんで辞めづらい感じだったんですけど高校とかもう結構みんな辞めてる子多かったんで。(C24) ・2、3人。結構辞めてました。(C25) ・退部を受け入れてくれるんやったら何も言わずに受け入れてほしかったです。(C44) ・高校は中学と違ってすぐ辞めれるみたいな、退部された人も周りにおられたからっていうのもあったんですけどその辺はなんかいるから、とかあったんですかね。辞めやすいんやっていうのに気付いたからハンドもそうですしバスケもあやめようって思えました。2、3人私の友達で辞めてたからもう辞めよーって。伝統って言うんですかね中学校は辞めづらい、ほんとに辞めてる子が一人もいなかったから、辞めたいと思ってても、続けよかーみたいな感じやったんで、そういうのに関しては高校よかったです。なんでなのかわかんないですけど中学校は輪というかそういう雰囲気、辞めたらあかん環境っていうんですかもう入ったら辞めたらあかんっていう雰囲気。辞めた子が一人もいなかったからそういう雰囲気なのかなって。(C99～C103) ・中学って辞めづらいらしい、一回入ったら辞めづらいよみたいな聞いてたってのもあるし、実際先輩らも雰囲気辞めたい辞めたいって言いながらも辞めへんから、あそういうもんなんかなっていうのは自動的に思ってたかもしれないです。(C105) ・辞めやすいほうがいいです。ある意味中学は鍛えられたっていうのはありますけどね、辞めたらあかんっていうのだったから、もう頑張らなっていう意味では中学がいいと思うんですけど、意見尊重してほしいっていうのであれば絶対高校。もう中学は鍛えなあかん年なんかなって辞めたらあかんじゃないけど、中学はもうメンバーが良かったんで、別に辞めたいって思ってもこの子らがおるしがんばろって。(C106) ・早めに退部届をちゃんとだせてればっていうのはあったんですけどそこでもたついてしまって、まあちょっと行きづらいなっていうのはあったんですけど、退部届を出すっていうのが、自分の中で決断として行こう！っていう気になれなくて、結局1年くらいかかってしまったんですけど、やっぱその間が、ちょっと長かったなっていうのはあります。(F45) ・部のほうから圧力がかかるとか、顧問から指導を受けるとかそういうような状況では全くなかったんで、だから退部届を出して正式に退部するかこのままズルズルというで落ち着けるのかっていう選択だけあったので。(F58)

⑧ 分析ワークシート

	<ul style="list-style-type: none"> ・ふつうに退部しますって、でも向こうも普通に受理したっていう感じだったと思います。だからそこは楽に終わった、ずっとずっと抱えてて、出しづらかった割にはそこはスッとおわって、あーよかったよかったっていう感じでしたね。(F75) ・事務处理的に、あー分かったわ処理しとくねーお疲れさんっていう感じでしたね(F77) ・(退部届出すとき)事務処理みたいな感じ。もう先生辞めます、みたいな。(H63) おう、そうかって感じ。特に言葉は交わさず。(H64)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時、退部後 ・環境的支援

⑧ 分析ワークシート

概念名⑦	退部を表明しやすい雰囲気
定義	退部したいことや、退部届を出すことに関して、言い出しやすい雰囲気や言っても大丈夫な雰囲気をつくっておくこと
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・こうやからみたいなの、私もその時自分から辞めるなんて言えなかった、でまあ親が言って (A52) ・自分で、言わないけん立場を親に言わしたのはなんか申し訳ないな。(A55) ・本当は親に頼るんじゃなく自分で、言わなあかんって。(A56) ・辞めるって言うたら、いじめじゃないけどそういうのが起きるんちゃうかみたいなのがあったんで (A58) ・いじめっていうかなんか、その人からなんで辞めたんみたいなの。(A59) ・早めに退部届をちゃんとだせてればっていうのはあったんですけどそこでもたついてしまって、まあちょっと行きづらいなっていうのはあったんですけど、退部届を出すっていうのが、自分の中で決断として行こう！っていう気になれなくて、結局1年くらいかかってしまったんですけど、やっぱその間が、ちょっと長かったなっていうのはあります。(F45) ・言い出しづらい。で、その、出さずに練習に行かない時期が延びれば延びるほど出しづらくなっていくっていうところにははまっていました。(F46) ・結局言い出せなかったっていう部分はあるんで。(G100) ・それこそ練習がきつすぎてとか、掛け持ちしてるわけじゃなくて、なんかちょっとその当時の中学校、中学生って敏感じゃないですか、思春期は言って、で、だからその敏感な言いづらいじゃないですか、例えば野球部やったら野球の練習がつらくて辞めて、楽な部活に入ったとか、言いづらいじゃないですか、だから言い出しづらいんじゃないかなと。(G109) ・まあ卓球やりたくて、行ったならいいですけど、楽な方に逃げたいっていう方なら言えなかったんじゃないかな。(G117) ・一応その先生が話しやすい間柄やったっていうのはあるかな、なんでかっていうと、それが高1の時の担任だった先生で、その先生が俺が高2になったときに、副顧問にいたから、いいやすかったっていうのもあるな。(H44) ・実質その先輩らとやったサッカーの時間のほうが長かったわけよ。そう考えると、だからそのレベルでやってた一緒にやってた先輩とのほうがそういう話しやすいかなみたいな感じかもしれん。時間の共有かな、一緒の。(H47)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時 ・レッテル怖い ・わかってくれそうな人を選んで話す ・何で辞めたんって聞かれそうなのが不安でいえない

⑧ 分析ワークシート

概念名⑧	影響力のある大人が聞き入れてくれる
定義	退部に関して直接的に影響力のある大人に相談できる
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・こうやからみたいなの、私もその時自分から辞めるなんて言えなかった、でまあ親が言っ (A52) ・先生はその人が一番上やからって言われてて、でその人に話して。(A81) ・先生に言わな、先輩らとかに言っても意味ないから。(A105) ・相談に乗ってもらっていうところはあってもよかったと思うんですけどね。ちょっとその、部活外の人ですね。やっぱ顧問ってなるとちょっと聞きづらいとか言いづらいってところがあるので、担任とか、そっち系やったらあってもよかったとは思いますがね。(F52) ・そうですね個人的にはクラスに当該部活以外の、別の友達と、相談しても、別にその部活に関して何か変わるわけじゃないじゃないですか、別にそこに相談しても解決にはならないような気がして、個人的にはそこに助けを求めようとはしてなかったですね。(F57) ・やっぱりそうすると先生の方が頼りになるじゃないですけど、そっちに行くのが直接的かなって感じはしますね。(F58) ・副顧問に言ったのも、先輩、やっぱ上の人に (H43) ・一応大人やしっていうね、上の人やしっていうのもあるね、だからどっちかっていうと上の人の方が言いやすかったっていうのはあるかな、同級生よりも、先輩とか、先生っていう上の立場の人間のほうが言いやすかったのかもしれん、俺としては。(H46)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時 ・親、一番上の立場の先生、担任

⑧ 分析ワークシート

概念名⑨	相談に乗ると持ち掛けてくれる
定義	部活に行きにくくなった時、異変に気づき、相手から相談を持ち掛けてくれる
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩が、ちょっと話しよやって言ってくれた時も一緒に、… (中略) …いろいろ相談、悩んでんのかっていろいろ相談乗ったるでみたいって言われてるときは嬉しい (B16) ・電話来たんですよ顧問は、辞めるんかどうすんのかってずっとやっと思ったんで、顧問とは話してました。(B79) ・卓球で一番仲良かった子に、なんか悩んでることあるならいろいろ相談して言われて (A19) ・同級生、なんかあったら言いや一って。先輩方にも言われたんですけど。(A21) なんかちゃんとうちのこと大切に思ってくれてるって。(A23) 言ってみてちょっと楽になったかなー。(A26) こんな私やけどいいんかなみたいな、大切に思ってくれてる。(A37) ・＜なんで辞めたんって言われるより、そういうことがあったの？って聞かれたほうが答えやすかった＞そうですね。(A69) ・辞めへんの？ってその子から言われて (D13) ・同じクラスの子が、珍しいなって。でそこから、こういう理由で一って毎日その子と話して (D14) ・友達がどうしたんって聞いたから、こういうので今こうなってんねんっていう状況を説明して (D18) ・部活行ってないけど、どうしたんっていうみたいな、どっちかっていうと相談とかカウンセリングっていう話の形でもって来られたらちょっと変わったかもしれないですね。(F56) ・どうしたんっていう相談に、声をかけてもらうのもしではなかったと思います (F71) ・なんかあったんかなっていうのは気づいてくれてた (C32) ・うーんって感じ、もうちょっと気づいてくれたらよかったにって思ったし、ふーんあっそって感じ。(D65)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時 ・先輩 (信頼できる人、好印象の人、「いい人」) ・顧問 ・一番仲いい同級生

⑧ 分析ワークシート

概念名⑩	カウンセリングに繋げてくれる
定義	本質を相談できるカウンセリング様の機関や人に繋げてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・部活行っていないやんみたいなの、指導って感じの提示のされ方じゃなくて、部活行っていないけど、どうしたんっていうみたいなの、どっちかっていうと相談とかカウンセリングっていう話の形でもって来られたらちょっと変わったかもしれないですね。(F56) ・特に自分を親身に見てくれる先生っていうのは存在として大きい、まあ心理的にいてくれると楽かな。(F64) ・相談に乗ってもらってっていうところはあってもよかったと思うんですけどね。(F52) ・はじめ誰に相談したらいいかわからんくって、とりあえず親から相談したんかな。(A45) ・たぶん誰でもいいから、うーんなんかよく分からないですね。親が、親でいいんかなって。(A47) ・言うけど、俺が本質としてるのは練習内容やったからちょっと違うかもしれへんな(H29) ・共有したかったけど、そこは各々の、個人の考え方があるから、しゃーないかなあみたいなの(H30)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時 ・退部時 ・退部後

⑧ 分析ワークシート

概念名①	話や意見を聞いてくれる
定義	親身になって話や意見を傾聴すること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・私の意見聞いてくれてじゃあ辞めたらいいと思うよーって感じ (C90) ・＜自分が思ってた方向とは違う、勉強のこと＞そうそうそう。＜そっちよりは卓球のことを聞いてほしかった＞そうですね (A93～94) ・部活行くのが嫌やって言うたらまあなんで？って言われて、こうこうこうって言った (A40) ・ほんまに辞めたいと思ってるん？っていう親身に聞くっていう感じの言葉かな。お前辞めんなよとか、辞めるとかいうなよとかさ、そういうこと考えんなよ、とかっていうよりも、ほんまに辞めたいと思ってるんや、みたいな、話聞くでくらの感じの方がいいかな。 (H38)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部前、退部後 ・友達、母親、部活の同級生

⑧ 分析ワークシート

概念名⑫	理解してくれる
定義	話を聞き、わかってくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんと話したら理解してくれたんで、それやったら仕方がないって、そういう意味ではよかったです (C48) ・お母さんはよお分かってんなって感じでした。僕のことよお分かってんなって思ったし、だから外によお誘って、なんか気分転換させてたんかなってというのは、今になって思いますね。(B57) ・あんまり同級生に言えてなかった可能性あるな、だからほんまにこいつ辞めると思ってたなかったみたいな感じかもしれん。(H35) まさかあいつがほんまにサッカー辞めるつもりはないやろと思ってると思う。(H36) ・同級生のやつらからしたら、俺が話せてなかったっていうのもあるけど、たぶん本気でとらえられてなかったっていうのはあると思うね。(H41) ・伝わったんかな、口論しとるときにこっちは伝えとるはずやけど、伝わったんかな、伝わってないんかな (H65) ・俺の考え理解できひんやつ、監督、そやな、俺のこの考え他のやつ理解してくれへんやろって感じだったのかもしれへん、どうせ言ってもしやあない、もう部活辞めたし関係ないしなって。(H86)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部前、退部時、退部後 ・顧問、母親、部活の同級生 ・わかってくれることが今後の関係に関わる

⑧ 分析ワークシート

概念名⑬	共感してくれる
定義	話を聞き、共有し、共感的に関わってくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・親戚とかもありがたかったかも、部活辞めてんって言ったときに、うちの子どもも部活辞めようか思ってた時期あったから分かるわーって (B60) ・練習方法に対しての不満はな、そんなに基本的にしてなかった。俺くらいかな、そういうふうに言ってたんは。それこそ、そんなにレベル高い高校じゃないから、別になあなあでええわみたいなのやつらやったから、その辺はあんまり共有できてなかったかもしれへんな。(H28) ・共有したかったけど、そこは各々の、個人の考え方があるから、しゃーないかなあみたいなの (H30)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部前、退部後 ・親戚、部活の同級生

⑧ 分析ワークシート

概念名⑭	見解を伝え返してくれる
定義	話を聞いて、考え、具体的にアドバイスや意見をくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<p>・一応アドバイスくれて、でも最後はあんたやで、決めるのあんたやでって。友達やとうんそうだねーそうだねーで結構終わると思うんですよ、お母さんちゃんとアドバイスしてくれる、も言いつつ、あとはあんたやでって一番言いやすい。(C90)</p> <p>・友達はアドバイスはなかったですかね、私の意見聞いてくれてじゃあ辞めたらいいと思うよーって感じで、お母さんはメリットデメリットあるからっていうのはしっかり考えて辞めるか辞めないか決めなさいって言うってくれるからそういう意味では一番お母さんですかね。(C91)</p> <p>・毎日その子と話してて、そんなやったら、なんでそんなに気使ってやるの？別にそんな気使わんでいいんちゃん、たとえ入るきっかけの友達が教えてくれるって今教えてくれてないんやろって、そんな風に思うんやったらなおさら、そんなんで3年間しんどいやん、そやんなーって (D14)</p> <p>・説明して、そしたらそこもうちょっと頑張るの？それとも辞めたいの？ってその子が聞いてきて。そんな思いするんやったら別に同じクラスやねんし、同じクラスだけで別に部活一緒に行かんでもいいんちゃうっていう感じの、勧めるじゃないけど、支援的な感じを受けて、ふーんそんな考えあるんやーみたいなんでいったかな。そこで、結構がくって下がってて気持ちが、言われる前はため込んでたから、でも言われたことでそういう考えもあるんやって気持ちは上がって (D18)</p>
理論的メモ	<p>・退部前</p> <p>・母親、クラスの友達</p>

⑧ 分析ワークシート

概念名⑮	支援を考慮してくれる
定義	対応の改善やサポートを考えてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちもサポートするしって言ってくれた (C58) ・ 先輩は私らも対応をもっと改善するしとか言ってくれたのはうれしかった (C59) ・ サポートしたいって言ってくれたんで、全然嫌な気持ちはしなかった (C80)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退部希望時、退部時 ・ 先輩

⑧ 分析ワークシート

概念名⑩	的確な対応をしてくれる
定義	理解し、的確な関わり方をしてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・一人になって暗くなることは今考えたらなかったんやろうけど、それでも、その、外に出てる間っていうのは紛れるんで、今考えたらそういうのは狙ってやってるんか、何でやってるんかわからなかったけどありがたかったですね。(B60) ・僕の心に立った時にどうしたらええんかなって考えてやってくれたんがお母さん(B63)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部前、退部後 ・母親

⑧ 分析ワークシート

概念名⑰	気持ちを汲み取ってくれる
定義	話や行動から、気持ちをわかろうとしてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<p>僕の気持ちを一番代弁してくれて、僕の心に立った時にどうしたらええんかなって考えてやってくれたんがお母さん (B63)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活の先生は熱い人なんで、それくらいで負けるなーくらいの人なんですよだからそれで気持ち汲み取ってくれてなかったのかな (C38) ・その子に言ってもその気持ちを汲み取ってくれるわけがないやんって、諦めもあつたから、あの子に言ったところでっていうのがあつたから、一切は相談しなくて (D22) ・納得はしたんかなー、してないと思うけど、でも最後辞める、もういいよーみたいになったときに言いはったんが、全然部活内に出れなくて気づいてあげれなくてごめんねっていうのは向こうに言っていた (D53)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部前、退部時 ・母親、顧問、部活の同級生 ・気持ちを汲み取ってもらえないと今後の関係が良くない

⑧ 分析ワークシート

概念名⑱	所属感の提供
定義	無所属感から、次の居場所を提供してくれる
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・どこに行ったらいいかわからないので、幽霊っていう状態で、剣道部に行ったらいいのか無所属に行ったらいいのかちょっと分からない、あーどうしたらいいんやろなー気まずいなーっていうのはありましたね。(F87) ・体育祭の応援とかで、部活動はその部活を応援しにいかないといけないですけど、そこに行かないといけないのか、自由に選んでいいのか、そういうところは、ちょっと迷った覚えはあります。(F88) ・気は楽になりましたね。無所属だ！っていうほうになったので。＜無所属っていう方にもうシフトできた。＞(F92、93) ・自分の心理的な部分だけですかね。わだかまりから抜け出せたっていう感覚くらい。何部って聞かれたときになんて答えたらいいんやろなーって部分はありました (F94)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部届を出すか出さないか

⑧ 分析ワークシート

概念名⑱	次のステップに強く誘ってくれる
定義	次のステップに何度も誘ってくれる、強く推してくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会どうやって言われたんですよ。陸上部に、お前が（生徒会）入っとったらボッコボコやわって言われた（B66）僕は陸上部の存在がなかったらやってもええかなって思いました。やっぱりそこでもうひと押し欲しかった（B67） ・陸上部は辞めたと、僕は陸上部より、他のことの方が楽しいと思って、でも陸上部辞めてお前他の部活入るんかいってなったときに、他の人とやっぱり関係が崩れることがこわかって入らんかったんですよ、てなったときに、いやいやいやもう何回も断ってんだけど入れって言われてんっていう風に、仕立て上げたかったっていう感じはあります。（B68）＜陸上部の子らとかに納得できるような理由が欲しかった＞ ・自分がスポーツに対しての劣等感を感じてるから主体的になにかをしたいな、へたなものに首を突っ込む勇気がなくて。（B55）
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時、退部後 ・先生 ・次に進む理由がほしい（周りが納得できるもの、関係が崩れないもの）

⑧ 分析ワークシート

概念名②⑩	戻れる雰囲気をつくってしてくれる
定義	一度退部しても、また戻ってきてもいいと言ってくれる、戻れる雰囲気をつくってしてくれる
具体例 (ヴァリエーション)	<p>・お前が戻ってきたいって高校1年生くらいになったときに戻ってきたいって思ったら戻っておいでって言われました。(B39) その先生が、高校1年生の入学当時に、呼んできて、部活やれる気になってきたかって言われてたらたぶんやってたと思いますね。もうみんななんも気にしないひんからおいでって言われたらたぶん入ってたと思いますね (B54)</p> <p>・たまに部活に顔見せたり。呼ばれたらなんか行っちゃう。(A34、35)</p> <p>・勉強で成績上がらないから辞めるってなったので、なんかそのちゃんと、早く勉強して、なるべく早く戻ってきてほしいみたい何言われたら、嬉しかったと思います。でもなんかこう(退部するって)言ったときに、あ分かった!みたいなされるとそれはすごく悲しいと思うので、適度に難しいんですけど、なんとなく認めつつ、待ってるねの一言があったらうれしかったのかなーと思います。(E50)</p> <p>・<状況も理解したうえで、待っててほしいというかいつでも受け入れる体制整えてほしかったっていう感じ。>そうですね。それを部長が同じクラスで何回も声かけてくれてたところかなって思います。(E51)</p> <p>お前そろそろ戻ってこん?みたいな感じになったんかも (H66)</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部時、退部後 ・顧問、同級生 ・戻ってきていい場所があるから辞めれた ・保証されてる感じがあると安心して辞めれる。戻る選択肢もその後できるかもしれない。

⑧ 分析ワークシート

概念名②	スポーツをする場の提供
定義	他にもスポーツができる場所・部活などを勧めてくれる
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・もう一度何かしたいけど、自分がスポーツに対しての劣等感を感じてるから、主体的になにかをしたいな、へたなもんにも首を突っ込む勇気がなくてっていう感じですかね (B55) ・バレー部にも誘われたんですよバレー部にも誘われたときに、もうひと押し欲しかったっていうのはありましたね (B67) ・やっぱスポーツしたいわーみたいな言ったら、じゃあバスケ部入ったらって言われて、入ろうって。(C78) ・体育のときにバレーボールしたときに、たまたま体育の先生がバレーの顧問やって、入れーみたいなのか、陸上の先生が体育の先生で、私肩強いんで、体育の授業でたまたまやり投げやったんですよ、で私めっちゃとんだから、入れーみたいなのかあったんですけど、もうそんな時の時点でバイトしてたんで、もうそこはもう、バイトしたらあかんかったんで、あーやめときまーすみたいな、そこは別に悪い気しなかったです、なんか自分強いんだなみたいな、別に嫌な気しませんでした。(C81)・話し合いとか、こういう戦術あるけど、どう思うっていうのを学年問わずやってくれたら、プレイに関してやから、そこに人間関係なくできるほうやったから、休憩やったら練習から除外ではなくてソフトボールに関する話してくれたら気は紛れたかな。(D62) ・顧問が変わったから、こーへんかーって言われて、投げることは好きやったから、やり投げみたいなんじゃあ借り入部でもいいですから行けたけど、まあ走らされてんやんか、やり投げでも、その走るの嫌やわって思ったから、しかも短距離のペース早い子と走らされたから、やり投げはすごい魅力なんですけど、今からちょっとって、それが2年の中盤やったから、今からやっても試合出れるか分からへんし、だからといって3年までやる必要性あるのかなっていうのがあったからお断りしたねんけど、まあ今からやっても必要性あるなって思ったら違うとこに勧誘されても行ったんやろうけど (D77) ・やり投げをしてみいひんかって言われたのは別にうっとおしくはなかったかな、あーそんなんあるんやーって。(D78) ・その後なんか運動してるんかっていう話になって、してないですって、しかも校門で止められるから、生徒指導の風紀の先生だったから、服の身だしなみで怒られるかなって思って行ったら、まさかのソフトボール入らへんのか、もどらへんのか、他の部活してんのか、クラブ活動してんのか、学校以外でやってんのかっていうのを永遠と聞かれる (D80)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部後 ・顧問、先生

⑧ 分析ワークシート

概念名②	新しく何かをする場の提供
定義	別の所属場所や、スポーツ以外のやる事を勧めてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・バイトはとりあえず、お母さんに、何もすることないんやったら、定期代稼げって、それきっかけではありました。週 5 とかで、暇すぎてすることなかったんで、速攻帰って。(C85) ・担任の先生ももう僕が辞める辞めへんどうでもいいんですよ、でもお前部活辞めたんやろ、生徒会どうやって言われたんですよ。嬉しかったですよ嬉しかったけどやっぱりそこでもうひと押し欲しかった (B67)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部後 ・母親、担任

⑧ 分析ワークシート

概念名②③	勉強に切りかえる提案をされる
定義	部活をしない代わりに、勉強を頑張るように勧められること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・辞めろってそんなきつくは言ってないですよ、勉強頑張れよみたいな (B33) ・先生は、しゃあないなみたいな、人間トラブルは誰だってあるし、勉強と両立できひんのが一番あれやって、まあされやったら辞めて、勉強のほう優先しみたいな言ってもらえた。(A76)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部時、退部後 ・顧問

⑧ 分析ワークシート

概念名②④	引き留めない関わりをしてくれる
定義	何も言わないでいてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<p>・向こうもお前にいてほしいみたいなこと言ってこなかったんで楽と言えば楽でしたね。まあ次のステップ進むうえで、障害にならなかったっていう、それでそうですね空手の先生みたいにもうちょっと考え直してとか言われたらしんどかったですね。(G51)</p>
理論的メモ	<p>・退部希望時</p>

⑧ 分析ワークシート

概念名②⑤	引き留める関わりをしてくれる
定義	退部希望時に、引き留めてくれる
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人に引き留められるんですよ。同級生に引き留められることはまあなかったですけど、顧問の先生、先輩、には、めっちゃ引き留められるんですよ。(B16) ・実際でも先生から、お前はええわってでも引き留められるやろなって思ってたから、あ、引き留められへんねやって言う驚きの悲しみのあったと思いますね。(B46) ・そこ（引き留めてくれた）はうれしかったです。先輩ははい、顧問は悪口言ってきたんですけど先輩は私らも対応をもっと改善するしとか言ってくれたのはうれしかったなって言うのもあるし、それを断った自分っていうのが罪悪感、余計。でも言われたこと自体はうれしかったすごい。(C59) ・(退部したい) 言ったときに、あ分かった！みたいなされるとそれはすごく悲しいと思う (E50)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時 ・顧問、先輩 ・後腐れないならいいわけではない ・一応ひきとめといてほしい ・残念がってほしい ・しつこくなくて、でも退部許されるのが条件

⑧ 分析ワークシート

概念名②⑥	個人の気持ちとして引き留めてくれる
定義	理解してもらったうえで、個人的な気持ちとして引き留めてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問から電話かかってきて、今何してんの？って言われてそれで、いやいろいろしてました一って言ったらみんなお前待ってんで一って、なんかみんなお前のことが大好きやねんってなんか、言われるんですけど、絶対ウソやんって、その先生は僕のこと大好きやねんって思ってくれるんですけど、その言葉が、つらいじゃないけど、や今先生の言ってる気持ちわかるし先生のこと嬉しいけど、でも今行きたくないが勝つんよな一みたいな感じになってましたね。(B16) ・いやそりゃあうれしかったですよね、やっぱり承認されてるってのがあったからうれしかったんですけどでも、お前こんだけ思われてんねん、わかってんねん行きたいねんけど、いざ行くやろそしたら練習しんどいねん (B34) ・先輩らはもう引退する際やったから、辞めるのはさみしいな一とかは言って (A106) ・めちゃくちゃいい先輩やったんで話しかけてくれたし、辞めるってわかったときも、先輩ら3人くらい来てくれはって教室に、辞めないでって言われたんで、引き留めてくれたじゃないですけど私たちもサポートするしって言うてくれたにも関わらず、遮断してしまっただっていうのもあって罪悪感は大しくて余計避けてました全力で。(C58) ・友達としてはやめてほしくないけど、Mが、私がそう思うんだったら辞めてもいいっていう風に言うてくれたんで、それもあって余計辞めやすかったんやと思います。(C74) ・引き留める権利もないし、友達としてはやめてほしくないけど、っていう気持ちだけ言うてくれてあとはもうゆだねる。余計救われました。(C75) ・顧問には、辞めてほしくないみたいなことは言われたんですけど、私が勉強できないこともよく知っていたので、それでその親の意向もあるしっていうのを話したら折れてくれたような気がします。ただ、いつ戻ってくるんだっていうのは会うと言ってくれたりはしましたけど。(E20) ・いつ戻ってくんのかって声かけてくれた (E26) ・戻ってきてよっていうストレートな感じが良かったと思います。私に気使ってるっていうわけじゃなくて、ほんとに彼女の気持ちっていう感じがしたので、よかったかな。(E54) ・先輩にもなんか言われたんかな、戻ったらみたいな、ほんで副顧問の先生にも言われたな。戻ったら一みたいな。(H68) ・喧嘩で退部したからまあこっちとしてもその気持ちを処理するための、まあ仲直りみたいな、感じのことをした方がすっきりはするやろうから、うれしかったっていうとそれは違うけど、まあまあまあみたいな、どっちかっていうとポジティブよりな感じにはなってると思う。(H69)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時、退部時、退部後 ・顧問、先輩、部活の同級生 ・わかってくれてて、「もどってほしい」という気持ちでの挨拶が良い ・退部してその後、なんも頑張っていないのかっていう頑張る条件で「もどってほしい」と言われての？ ・強めに圧力かけて何度も言うてくれる ・気持ちだけ伝える形で（先生は言わずにきれる）

⑧ 分析ワークシート

概念名㉗	能力を必要とされ引き留められる
定義	競技力や人数において、能力を必要とされる
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・いやそりゃあうれしかったですよ、やっぱり承認されてるってのがあったからうれしかった (B34) ・肩が強かったんですよ、それで先生的には育てたかったっていうのもあるんでしょうね (C46) ・(説得について) いやーすごいうれしい、ですよ。なんかそうやって必要としてくれてるっていう、うれしいなーって思った (E22) ・できるだけ早くやめたい、って思ってたのに、顧問がおってくれおってくれ必要やから必要やからっていうのを、まあ職員室で永遠と語られて、でもそんな中ではやりたくないしもうしんどいんです、っていうのを言ってやっと向こうが折れてくれた。(D51) ・ハンドの方は、陰悪まではいかないですけど、辞めるってなったときに試合の直前くらいやったんですよ、なんで先輩らが頑張って練習してきてその試合前に辞めるんかーみたいな感じで結構言われちゃって、辞めること自体はよかったんですけど、その時期が、顧問の先生的に、なんでそんな直前に辞めるんやみたいな、後輩として応援してやる立場じゃないんかみたいな言われたんで、すごい腹が立って、こっちの事情もあるし、じゃあ言い返してしまったんですよ、じゃあ試合後に辞めたらいいんですかみたいな言っちゃって、でそういうことじゃないみたいになってあーって喧嘩なって辞めた (C41) ・(戻ってきてほしいって) いや言われたくはなかったな、あの中にもう一回戻るの？って。(D25) ・ソフト部に戻っておいでよっていうことすらが嫌でしかない。たとえ先輩とか後輩が変わったとしても、もういいです、同期がもういいんで、っていうか感じで、誘われることに苦痛は感じた。(D26) ・監督が、戻ってきてくれって言ったから、戻った。戻ってこーへんのかお前って監督言っとして (H3) ・先輩はどっちかというとお前辞めんなって、最後まで頑張れって、みたいなまあどっちかっていうと辞めたらもったいないってっていう感じだった。(H39) 先輩からそういうふうに言われたんだったら悪い気はせえへんかったけど、あでももうちょい頑張ろうと思ったかな。(H40) 先輩らは上からの圧力ぐらいでよかったかもしれん。(H41) ・俺のポジションは司令塔みたいな、MF でほんまにど真ん中やから、ど真ん中のやつ消えたらさ、もう全然サッカー変わるからさ、サッカー内容が。それでもうあかんくなつたんちゃうかな、それで試合とかも全然勝てへんみたいになってお前そろそろ戻ってこん？みたいな感じになったんかも (H66)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時、退部時、退部後 ・顧問、先輩

⑧ 分析ワークシート

概念名⑧	退部を勧められる
定義	退部希望時に、相手から退部することを勧められること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで仲いい同級生は、お前そなん部活入らんと遊ぼうやみたいな (B16) ・お母さんはもう辞め一辞め一って言ってるんですよ。でも僕的にはお母さんにスパイク買ってもらったし申し訳ないって (B16) ・顧問の先生に呼ばれて、お前どうすんねんって言われたときに、どうなんでしょうって言ったときに、お前の顔みたら、今まだ陸上に復帰できる顔じゃないから、1回辞めろって言って、あんだけ引き留めとった先生がやめろって言って、心の中ではうれしいんですけどうれしさを出せないみたいな、それで悲しい顔して、わかりましたって言って、で提出したっていうそんな感じです。 (B16) ・みんないろいろつかかってくるけどなんかその人だけなんかひどくって、親もそのうちの親と結構仲良かったんですけど、なんか親のトラブルもあったりして、もうそんなんやめときって。 (A15) ・先生は、しゃあないなみたいな、人間トラブルは誰だってあるし、勉強と両立できひんのが一番あれやって、まあそれやったら辞めて、勉強のほう優先しみたいな言ってもらえた。 (A75) ・一応親には相談しました。お母さんとお父さんには相談して、で結構グチは言ってたんで寂しい1人で練習して、それやったらお母さん別にいいんちゃうみたいな感じで言ってくれたんでもう辞めよ一って。 (C18) ・部室の中に行ったらまず着替えせなあかん中で、みんなわーわーしゃべってるのに黙々と着替えるのそれちょっと耐えられへん、だからみんなが、グランド行くやろなのタイミングで行こうと思ってんねんみたいな、そんなに気使うんやったら辞めればって友達が。 (D13) ・友達と付き合いが長いから、一緒にやりたいけど、試合とか練習場とか行っても、なんか一緒におるのしんどいって思うねんって話したときに、そんな思いするんやったら別に同じクラスやねんし、同じクラスだけで別に部活一緒に行かんでもいいんちゃうっていう感じの、勧めるじゃないけど、支援的な感じを受けて、ふーんそんな考えあるんやーみたいなんでいったかな。 (D18) ・俺から辞めるって言ったからな、辞めろ言われても、うん、そやな、ありがとうって、その通りやって。そこで引き留められても辞めるのをやめへんわっていう感じかな。 (H62)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時 ・クラスの友達、母親、顧問

⑧ 分析ワークシート

概念名②	退部への肯定的意見
定義	退部に関して、肯定的な意味合いを持てるようになること
具体例 (ヴァリエーション)	<p>・親戚とかもありがたかったかも、部活辞めてんって言ったときに、うちの子どもも部活辞めようか思ってた時期あったから分かるわーって、だからその辞めたことに対して、なんで？って思う子が多い、じゃないですか中2って特に、そのなかで、やめることに対して肯定的な意見をくれる人ってありがたかったですね。お母さんもそうやしおばあちゃんもそうやし親戚も、結構家族とかわかってくれてたなっていうのはありますね。(B60)</p> <p>・思ってたのと、あーちゃうねんなーっていう、別にやめてよかったんやなーって言うのは結構あったので自分の中で、そこで吹っ切れました。(C121)</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部後 ・家族、親戚 ・自分で

⑧ 分析ワークシート

概念名③	意思を尊重してくれる
定義	本人の意思を優先し、尊重してくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・辞めるのは自分の意思やから、それはもう好きなようにって。(A40) ・先生もまあわかったって、それが自分の意思やったらしゃあないねみたい。(A52) ・自分の意思が、強いから、先生ももう何も言わないみたい。(A76) ・先生も自分が決めたことだったらええんちゃうかって。(A87) ・お父さんは別に、そんな無理強いする人じゃないんで続けろみたいなないんで、自分のやりたいようにってじゃあ辞めたいから辞めた。(C18) ・結構お母さんゆるいんで、自分のやりたいようにやればみたいな感じです。(C89) ・一応アドバイスくれて、でも最後はあんたやで、決めるのあんたやでって。友達やとうんそうだねーそうだねーで結構終わると思うんですよ、お母さんちゃんとアドバイスしてくれる、も言いつつ、あとはあんたやでって一番言いやすい。(C90) ・私の意見聞いてくれてじゃあ辞めたらいいと思うよーって感じで、お母さんはメリットデメリットあるからっていうのはしっかり考えて辞めるか辞めないか決めなさいって言ってくれる (C91) ・辞めやすいほうがいいです。ある意味中学は鍛えられたっていうのはありますけどね、辞めたらあかんっていうのだったから、もう頑張らなっていう意味では中学がいいと思うんですけど、意見尊重してほしいっていうのであれば絶対高校。(C106) ・顧問の先生が理解してくれてて、何も触れられずに、抜けさしてもらえた。(F76)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時、退部時 ・顧問、父親、母親 ・中学より高校のほうが意見を尊重してもらいやすい ・罪悪感にならない ・何言われても退部の意思は固まってる

⑧ 分析ワークシート

概念名⑧	退部を容認・許可してくれる
定義	相手にとって妥当な退部理由を話し、退部を許してもらえる、認めてもらえること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の心の中ではほんま辞めたいんですけど、その辞めたいがなんか前面に押し出せなくて、なんか周りが言ってるからやめたいみたいな感じでなんか仕立て上げたかったんでしょうね (B16) ・先生もまあわかったって、それが自分の意思やったらしゃあないねみたいな。(A52) ・まあなんかトラブルは言ってないですけど、部活との勉強の両立ができない、ために辞めますとかなんとか言っとった。(A54) ・そういうことで辞めたんですよって言ったら、向こうも納得して、A が辞めたいんだったらええんちゃうかみたいな (A67) ・顧問にもう辞めるって言って、あそっかっていうある意味許可みたいなんおいたらもう速攻退部届出して辞めれるんで、とくに理由、何で辞めれたっていうのないですねほんまに退部届出したら辞めれるみたいな。(C23) ・スって受け入れられるのがいいですね。辞めたいって言ったらそっかー！って言ってくれた方が、こっちも罪悪感を感じないというか説得されたら説得し返さないといけなじゃないですか、で、あーってなるんで相手の方も、それやったら普通にスって受け入れてくれた方が。ハンドのほうはだから全然罪悪感を感じなかったです先輩には感じたんですけどちょっとは、そんなにやったんで、っていう意味では何も聞かないで分かった一って退部届渡してくれる方がいいですね気持ち的には。(C40) ・あれはすごい腹立ちました。1 ヶ月もたつてなかったんで入部して、1 年とかたつてならわかるんですけど 1 ヶ月もたつてないからある意味体験期間みたいなんでいたのに、そういうこと言われて、いやいやいや、っていうのはありました。こっちの勝手なんじゃないかっていうのはありました。(C43) ・退部を受け入れてくれるんやったら何も言わずに受け入れてほしかったです。そっかーって言ってくれたらよかったです。(C44) ・ちゃんと話したら理解してくれたんで、それやったら仕方がないって、そういう意味ではよかったです最後が (C48) ・納得はしたんかなー、してないと思うけど、でも最後辞める、もういいよーみたいになった (D53) ・早く辞めさしてよっていう感じ。(D56) ・なんかいろいろ理由を自分で見つけて、厳しい、先輩も厳しいとか、別にやりたい競技じゃないっていうので理由づけして (C35) ・顧問には一応そっちで言ったんですよ厳しいって正直言ってやりたい競技じゃなかったんで、みたいな言ったら説得され始めたんで、なんかそれくらいは大丈夫やみたいな、そんな仲間がおるんやしみたいな、あ、これは辞めれへんなって思ったんで家庭事情話したら、あそっかーって辞めれました。バスケは。(C36) ・えって思いました。辞めたいのに辞めさしてくれへんてなんやねんっていうのはありました結構。(C37) ・なんかの事情でみたいならよかったですけど、ただ単に寂しいから辞めるって、余計感じてました。(C61)

⑧ 分析ワークシート

	<ul style="list-style-type: none"> ・その子に言ってもその気持ちを汲み取ってくれるわけがないやんって、諦めもあったから、あの子に言ったところでっていうのがあったから、一切は相談しなくて、辞める時も、その疎外感があってっていう辞める理由じゃなくて、他の子たちには勉強が付いていけないから勉強に専念するっていう理由で辞めるっていう風に、みんなに選手には言ったかな。顧問にはちゃんとこういう理由でこうなんっていう理由は話したけど。(D22) ・辞めてほしくないみたいなことは言われたんですけど、私が勉強できないこともよく知っていたので、それでその親の意向もあるしっていうのを話したら折れてくれたような気がします。(E20) ・それはなんかこう、親が辞めろっていうから辞めるみたいな感じで周りには言って辞めたと思います。(E44) ・私の中で辞めたいみたいな気持ちも強かったので、今思うとですけど、ちょっとぶっきらぼうというか、辞めたくないけど辞めたい風を装ってるだけみたいなかんじはたぶん出てたと思います。私は続けたいけど親が言うから辞めなくちゃいけない感を出すけど、それを装ってるだけ感もたぶん出てたと思います。(E46)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時、退部時 ・顧問 ・許してくれない感じがあるから罪悪感もってしまう ・何言われても退部の意思は固まってる ・しかたがない、っていうやつじゃないと許してくれないもらえない ・納得してほしい→許してほしい 43

⑧ 分析ワークシート

概念名③②	理由を追求しない配慮
定義	退部について、なぜ辞めたのか、理由を聞かれることなく配慮してくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・なんで辞めたん？って。(A27) ・いじめっていうかなんか、その人からなんで辞めたんみたいな。(A59) ・あなたのせいなのになんでそんなん言うのみたいなのはあったかな。(A61) ・言われるんですけど、あんまり触れなくなったらから、そこはあえて、勉強と両立できひんって言ったら、そんなん私も一緒にやみたいって言われたんですけど。(A63) ・＜なんで辞めたんって言われるより、そういうことがあったの？って聞かれたほうが答えやすかった＞そうですね。(A69) ・辞めた理由とか聞かれるのは嫌やった、なかったけど。関係性を問われるとか (D81)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・～があったの？って聞かれると答えやすい ・ふれられたくない ・分かってくれないから言いたくない ・分かってくれそうな人なら OK

⑧ 分析ワークシート

概念名③	部活動を遠ざけてくれる
定義	部活動のことを考えなくてもよいように距離を取り、忘れさせてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気紛らわしてくれる存在ですね、いらんこと余計なこと一切考えんでいいっていう (B61) ・ 友達と遊んでるときくらいそういうこと忘れさせてくれやっていうので、友達からの支援はいらないな (B64) ・ 同級生とかお前辞めんのんかっていろいろ話するんですけど、もう同級生の話は、話したくないから、もう無視してましたね、もうわからんって (B80) ・ なんで常に陸上のこと考えなあかんねんてのは常にありましたねく忘れれる存在として友達はいてほしかった> (B82) ・ お母さんは、外によお誘って、なんか気分転換させてたんかなってというのは、今になって思いますね。 (B57) ・ 一人になって暗くなることは今考えたらなかったんやろうけど、それでも、その、外に出て間っていうのは紛れるんで、今考えたらそういうのは狙ってやってるんか、何でやってるんかわからなかったけどありがたかったですね。 (B60) ・ あんまり聞かないでほしいっていうオーラしてた (A112) ・ 避けることで対処しました。その先輩を見たら罪悪感感じるじゃないですか、だから避ける、とは思います。卒業するの待つしかないみたいな、先輩ら卒業するのずっと待ってました。高3はもう解放的な感じ、先輩らもないから何も気にせず。それまでひたすら2年間耐えて解放されました。 (C65) ・ 辞めてからほんとにソフトボール部のメンバー、クラス以外の、メンバーと先生とか先輩とか一切関わりが全くない状態やったから、先輩とやったら、球技大会とかでは関わりあるけど結局それ以外ないし、メールとかもないし、辞めたら一切のシャットアウト。 (D68) ・ 突っ込まれても説明するのめんどくさいって思ってたから、突っ込まれるのが嫌ではないけど、当たり障りでそのままでいいよ。言いたかったら自分でたぶん言ってるし。言わないのは聞いてほしくないのもあるし、聞かれたら聞かれたでめんどくせえなっていうのはあったから、やったら、たぶんそれ話すと、個人的に呼ばれて掘りくりされるのわかってたから、ここのクラスでもまたそんなことされたら、まためんどくさいから、このままほっといてくれって思ってたから、当たり障りでいいよって感じ。 (D76) ・ そうですねたぶん距離置いてほしかったんだと思います。 (E68) ・ 疎遠じゃないですけどあんまり関わらないように (F24) ・ 部活関係はちょっとあんまり触れてほしくないっていうのはありました。こっちも幽霊になってるのもうなかったことになってるというか。そのままにしてくれてよかったと思います、あまり触れられないほうがこっちとしては楽。 (F32~37) ・ 退部をするっていうこと自体が、後ずさりするっていうか後ろめたい気持ちになると思うので、そこであんまり他者から干渉されても、ちょっとしんどい思いをするなっていうのはあるので、その点は、あまり触れられなくてよかったなって個人的には思ってる (F52) ・ 何も触れられずに過ごせたのは悪くはなかったと思っています (F71)

⑧ 分析ワークシート

	<ul style="list-style-type: none"> ・、テニスの話は中学校の時はあまりしなかったですねお互いの部活がどうのこうのって、まあ結局内輪の話になっちゃうんでわからないし。(G72) ・メンバーも顧問も副顧問も先輩も、そのサッカー部に関わる人間とはほとんど関わらなかった。(H85)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部後 ・クラスの友達、部活の同級生、先輩 ・期間（夏休み）

⑧ 分析ワークシート

概念名③④	部活動と学校生活の切り離し
定義	部活動の所属と学校生活の役割を別々にすること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部に指示があるときってあるじゃないですか、剣道部に、これはこうしてって役割分担があるときはちょっと気まずいなってというのはありましたね。(F2) ・くくりで動かされること自体が苦痛ではあった感じですね。そういうのをオープンにしてほしくはなかった感じはありますね、基本的にその部活で何かやるんやったら、部活内で指示してもらって、このオープンでこうこうやってこうこうやってっていう指示をされたら、ちょっと動きづらくなる感じはありました。部活でやるんだったら部活の時に指示してくれってというのはありました。そこはちょっとなかなか動きづらかったところではありますね。(F90、91)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部後

⑧ 分析ワークシート

概念名③⑤	退部仲間
定義	退部を誘われたり、一緒に辞めた仲間
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・ なんか同級生には、一緒に辞めようやみたいな感じで、そもそも陸上嫌いやけどはいっちゃった子に辞めることを誘われとって (B16) ・ <一緒に辞められた?>はい (B28) ・ ビジネスパートナーみたいなそんな感じ (B30) ・ その子も退部した子やったんですよだから余計、あ一緒に帰ろーあたしもやしーみたいな感じでした。(C113)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退部希望時、退部時 ・ 同じ部活の同級生 ・ 違う部活だけどクラスの友達

⑧ 分析ワークシート

概念名③⑥	同じ境遇の者で分かち合う
定義	退部者同士で話し合い、共感すること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何で辞めたんお互い何で辞めたんって、あたしはこうこうこうであたしもこうみたいなのを結構話しました最初の頃は。そやんな一わかり合える部分があったんで、そこで結構仲良くなって。(C114) ・ 厳しいとか。部活厳しいよなそんな好きでもないのにこんな厳しいのしんどいよな一みたいな、言って軽くなる。もともとクラスでも仲良かったんで余計ですかね。お前も退部したんってなって。(C115)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『退部仲間』の次の段階？ ・ 同じ境遇同士で話し合う

⑧ 分析ワークシート

概念名③⑦	挨拶をしてくれる
定義	退部後に会ったとき、相手から挨拶をしてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・通ったりしたら挨拶してます。(B52) ・僕が挨拶してもちゃんと挨拶してくれた (B72) ・喧嘩なって辞めたみたいな感じなんで、そのハンドの先生はもう無視みたいな。(C41) ・挨拶してしゃべるくらい。(C50) ・しゃべりかけないほうがいいんだなって思って挨拶も、気づかないふりして隠れてました。(C53) ・挨拶くらいはしとくべきやったなって、こっちからも普通に罪悪感感じてても、一応、先輩後輩の関係やったから挨拶はするべきだったかな、とりあえず気まずかった。見えたら逃げるとか、友達の後ろ隠れるとかしてたんでそういう意味では挨拶できる関係にしときたかった。(C55) ・あっちから来てくれたら全然挨拶したかなっていうのはあります。(C71) ・こっちからおはようとか言わへんし、向こうもおはようとか言わへん (D46) ・廊下とか歩いてるときは普通に挨拶 (G71) ・体育でしか会わんからなー、でも体育の時はフル無視やし俺。(H70) ・相手もフル無視やし、こっちもフル無視 (H71) ・夏休み明けに急に、どっちかと言うとあっちから話しかけてきよったな。あっちが、おう、みたいな言ってきたてこっちもおはようございますみたいな、それは言わんと、まあ一応先生やからな、最初は無視やったけどね。(H72) ・夏休み明けから、こう、あっちから挨拶とかしてきたから、こっちも挨拶返して。(H73) ・やっぱり無視っていうのはよくないね。まあ互いに無視やったけど。(H74) ・あっちが挨拶したきからもう、それは返すかな。(H75)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部後 ・顧問、先輩、部活の同級生 ・理解してもらえずに退部した、喧嘩で退部をしたなどの場合、「無視する」傾向がある ・罪悪感によって本人からの挨拶は難しい

⑧ 分析ワークシート

概念名③⑧	話しかけてくれる
定義	退部後に会ったとき、相手から話しかけてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・会ったらしゃべりましたし！（B73） ・先輩に会ったときの気まずさはすごい嫌でした。もうなんか、アっていう感じで、すいませんって感じで、校内うろつくときは気にするじゃないけど気にしてました。避けてましたもん、自分が先見つけたら速攻逃げる（C27、28） ・話し合って辞めたんで、普通にしゃべれる会ったらあーこんにちわって。（C41） ・挨拶してしゃべるくらい。（C50） ・むしろ話しかけてきてくれた方がなんかあーって。先輩とかはしゃべりかけてこないんで、罪悪感感じるあー怒ってんねんなーって。（C51） ・同期が普通に接してくれたのはよかったです。全然なんかみんな、はあ？みたいな感じにならずに、しゃべってくれたし、ご飯とかも誘ってくれたんで、そこは結構救いになってたかなって。その先輩に対して、罪悪感感じてたけど、同期はべつにそんな気まずさも出さずに、普通にしゃべりかけてくれたっていうのは結構大きかった。（C97） ・来てくれた方が、気小さいからもう、あっちから来てくれた方が、こっちとしてはそれが一番退部してよかった。（C98） ・方向一緒やから一緒に帰ろうよーみたいなのはある（D24） ・全然普通に声かけられても苦痛には感じなかったし、たぶんソフトボール部っていう空間にいるときが一番苦痛なだけで、別に部活外やったら普通にしゃべるし、地元も一緒やから、おっもおおー久しぶりっていう感覚にはなるね。（D27） ・集団じゃなくて個人個人やったら別にその子とその子でしゃべるから、集団の雰囲気崩さずっていう気を使わなくていいから、気にせずに、わーってしゃべれるから、そういうので、部活外と部活内では気の使い方が違うから、普通に話せる。（D28） ・学校ですれ違ったときにちょっと話すか、すれ違ったときももう、元気にしてんのか？って感じだった（E26） ・辞めたからって気使われると、なんかそれも全然違うし、かといって部員じゃないからって話しかけたりとかないうってのもやだし（E31） ・廊下ですれ違ったときに最近どうやって。顧問の先生は学年が違ったんで授業とかはなかったんですけど、すれ違ったときに声かけてくれたりはありましたね。（F40） ・挨拶とかしてくれるようになって、でそっからちょっとまた日がたって、話しかけてくるようになって、それはまた普通に会話としてね、挨拶じゃなくて。最近どうやーとか、で、最終的に戻ってこーへんみたいな感じになったはず。（H77） ・ずっと子供でおるわけにもいかんしなって、あっちがちょっと自分の誤りを認めるのであれば俺もその目上の人に対して、取ったらあかんような態度を取っとるわけやし、自分も悪かったと、そういう部分もあるから、まあそっちもそういう部分を考えてくれるのであれば、別に、そうやなー、これ結構昔の話やから、忘れるなー、まあ嫌悪感とかは徐々になくなったかな。（H78）
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部後 ・先輩、顧問 ・『挨拶』からの次の段階 ・辞めるときの話し合いが、無視が今後の仲に繋がる

⑧ 分析ワークシート

概念名③	変わらない関わり
定義	退部前と同じように関係を保ち、変わらない態度でいてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・＜先輩の変わらない関わり方とか、そういうところが良かったなって感じ＞あーそうっすね、あいつは競技レベルがへたくそだからああやとか、あいつは休むからああやとか、そういうの抜きにして僕を見ててくれてた感じがあったんで、先輩は好きでした、辞めてからも。(B74) ・顧問は、ピークがあるけど、同じように谷もある感じかな、先輩はずっと一直線で感じ。情熱も一人の生徒に対しての情熱のかけ方とか (B76) ＜顧問の先生にも一直線であってほしかった＞そうですね、ずっと見てるでって (B77) ・辞めないでって言われた時は友達が、その場で離れるかもって思ったんですけど、そんなん関係なく普通に話してくれたから。(A29) ・仲良く。たまに部活に顔見せたり、一緒に帰ったり。(A34) ・同い年は全く、ご飯とか辞めた後も誘ってくれたり。(C32) ・同じように接してくれてた、そこでですね、気悪くなるとかなかった普通に接してくれた。(C68) ・全く変わらず、ずっと仲良かった (C77) ・同期が普通に接してくれたのは良かったです。(C97) ・クラスの中でいる関係はそのまま維持っていうか悪くはなかったから、それが理想的だったかな。(D35) ・向こうがわからさまに態度変える人じゃなかったんで、結構辞めた後も、親しく接してくれたりとか、かわいがってくれてる感じはあったので。(E27) ・辞めたからって気使われると、なんかそれも全然違うし、かといって部員じゃないからって話しかけたりとかないっていうのもやだし、今までと変わらない態度で接してくれるっていうのはやっぱりよかったのかなーって、うんうん。(E31) ・退部した後も、普通に一生徒として、よく知ってる生徒として関わってくださったですしそこには特に何もなかったですね。もう全然ほんとに楽だったなって思いますね。この先生は部活の顧問ではないけど、いろいろ話せる先生だみたいな信頼関係はありましたね。(F60～62) ・変わることはなかったですね、結局今でも仲いい人たちはいます (G70) ・やってるときと辞めた後そんなに関係が変わらない。(G75) ・部活辞めるとちょっとやりにくいところあるじゃないですな気まずいとか、それがなかったのがよかったなって。(G77) ・学校始まってからは普通にしゃべってたけどな、最近どう一部活とかって、まあまあやで一とかってそうなんやーって。(H88)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部後 ・先輩、部活の同級生、顧問 ・退部したら友達が離れていくかもしれない不安

⑧ 分析ワークシート

概念名④	継続的な関わり
定義	歳月が経った後にも良好な関係であること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で一緒に飲みましたしね。そうっすね、先輩と仲良かったかも (B73) ・今も仲いいんですよ。その時も仲良くって、今も遊びに行ったりご飯行ったりして。(A16、17) ・この前は友達から、卓球の友達から、先輩も来てるからちょっとご飯でも久々に会うから来いやって誘って。今でも。(A109、110) ・今もずっと遊んだりしてるんで。(C96) ・今でも付き合いある人はいますね (G14)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部後、現在 ・先輩、信頼できる人、部活の同級生

⑧ 分析ワークシート

概念名④	普遍的な関係の保証
定義	退部の決断において、退部をしても、現在ある関係は変わらないと伝えてくれること
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・やめても今の関係が続くからなくらいの感じで言われたかった部分は最初からありましたね。なんか、お前がやめたところで別に、陸上部がお前のことを嫌いになったりとかせえへんから、やめて他のこと頑張れって、で、なんかいろいろ悩んでるかもわから返けどそんなん誰も悩んでへんからくらいに言われたほうが、僕としては苦しくなかったかな当時の僕は。(B35) ・退部してええよただ、退部したところでお前のこと嫌いになったりとかもせえへんし、もうなんも気にしてへんからみたいな言われる方が、僕はよかった。(B37) ・その前段階、僕がやめるって言ったときに、ああ辞めてええよ、ただお前がやめたとしても、お前のこと誰も嫌いになれへんし、何も考えんと辞めたらええっていうくらいが欲しかったです。前段階で、そこまでなってきたら誰に対してももう何にも思ってたせんでした。(B48) ・何にも気にしてへんからなー、辞めても別にええで一、まあ来てもええで一、ぐらいちやいますかね (B70) ・辞めても、卓球の人らが、辞めても友達やからみたいな言われた。(A32) ・こんな私やけどいいんかなみたいな、大切に思ってくれてる。(A37) ・そういうことで辞めたんですよって言ったら、向こうも納得して、A が辞めたいんだったらええんちゃうかみたいな、それでなんか友達が離れるわけでもないしって言われました。(A67) ・辞めても、先輩やからって言われて。(A106) ・ずっと仲良かったんで、バスケ部入る前から、ハンドに入ってる時から全然仲良かったんで、と、バスケ部入って余計一緒にいる時間が長くなって仲良くなったっていうのは、元からバスケ入る前から友達だったんで別に辞めてから気まずくなるとか全然。(C77) ・退部届を出した時点で、普通に処理してもらえたので、その後は（関係が変わるとか）あんまり心配はなかったです。(F78)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部希望時、退部時 ・部活動関係者全般、顧問、部活の同級生、先輩 ・重要な支援 ・一番求められているものかも？ ・もともと仲が良かったため、変わらない確信があった場合もある

⑧ 分析ワークシート

概念名④	部活外における友達との深い関わり
定義	部活をしていた時とは別の友達に関わってくれたこと
具体例 (ヴァリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい友達増えたというか、部活やってると部活のみんなで帰ったりとかなるじゃないですかでも部活辞めたらその部活やって無い子としゃべるようになったし、帰りも部員じゃない、同じクラスの子と帰ったりするようになったんでそこでまた新しい増えたっていうのはよかった (C110) ・一応クラス内で、さっきのバスケ部員でありつつめっちゃ仲いい子と一緒にいたんですけどクラス内で話す友達やったんですよもとから、で部活やからって一緒に帰れなかったんですけどまあ普通にしゃべってたんですけど、部活辞めたから私が一緒に帰る子おらへんし、私が誘って一緒に帰ろって、そっからきっかけでほぼ毎日、一緒に帰ってましたね。(C111) ・辞めてから2か月くらいたってから、お互いに、違う子たちと話すようになったから、言ったら同じクラスにいる子たちの、クラスメイトっていう感じになったかな、はじめは友達同士、で仲のいい子と食べるっていう感じやったけど、分裂じゃないけど、私はこっち、私はこっち、でこっちの友達としゃべっとく、こっちの友達は友達、みたいな。(D37) ・こっちの友達やったら話し合うし、共通の話題とかもあったから、こっちのほうが楽やわって感じで寄っていくし。(D40) ・辞めた後はやっぱり私より先に辞めた子と、その子らのグループと一緒に遊ぶみたいなので、クラス関係なく遊んでたって感じですね。(E73) ・もっと仲良くなったじゃないですけど関わるようになって。(G79) ・俺はだからクラスの部活入ってなかったやつと遊んどったかな。(H82) ・そいつらとよく遊ぶようになった。前から仲よかってんけど、部活あるから使ってる時間が違うかってん、だから時間があいたから、そいつらと遊ぶようになったかな。(H83) ・学校始まってからも、部活のやつより、クラスのやつとおるようになったかな。まあもともとサッカー部のやつと、もう1人くそ仲いいやつがおったからさクラスの中に、そいつとおるほうが増えたな、だから関係性が変わったとしたらそこかな。(H89) ・クラスのやつとの関わりが増えたな。クラスの1人ね、おった友達との関わり合いが増えてっていう感じかもしれん。(H94)
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・退部後 ・クラスの友達 ・辞めたことで仲が深まった